

EB25
101



0035159-000

EB25-101

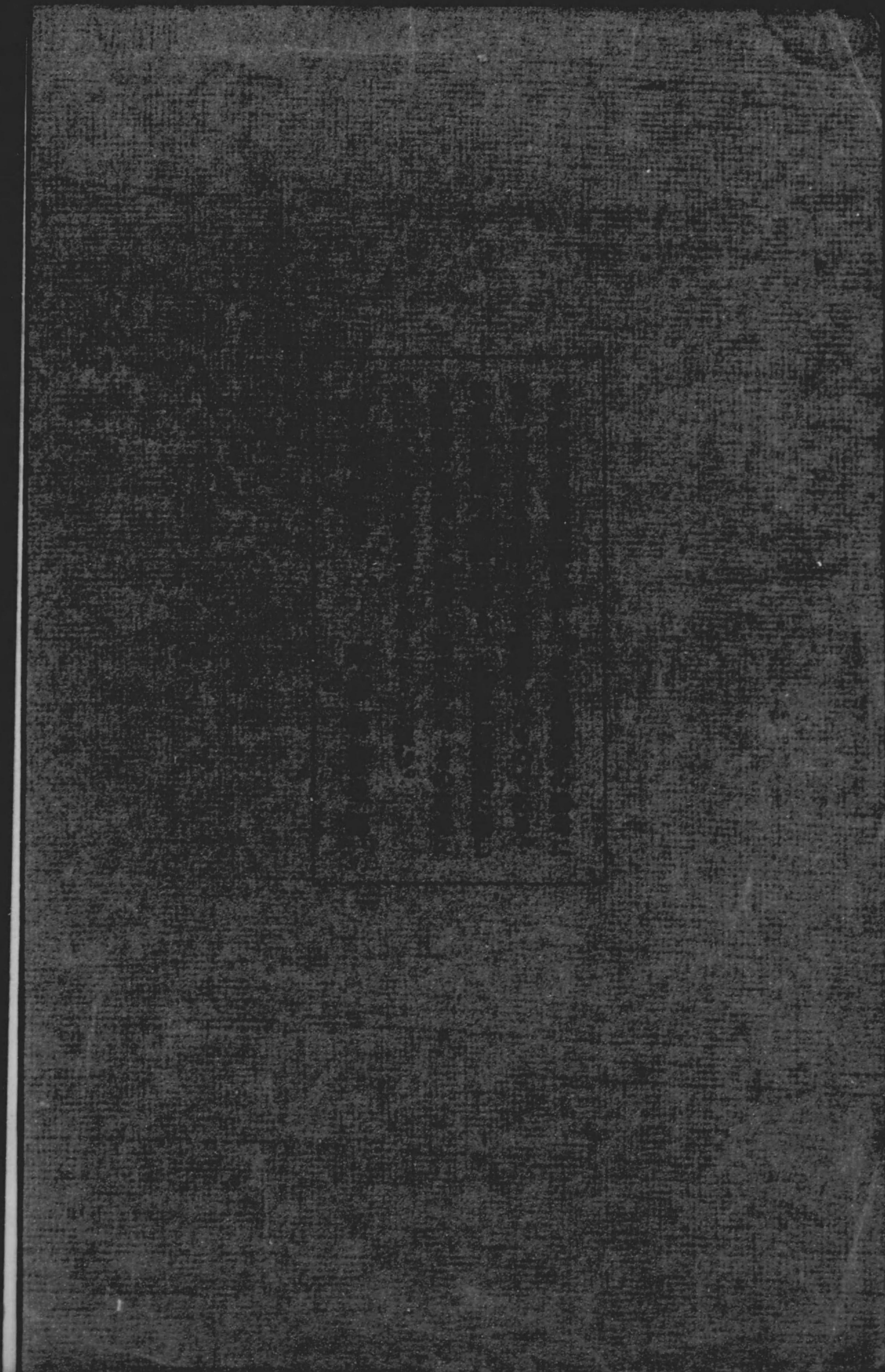
教育関係に於ける左傾思想運動

文部省

1933. 3

AGC

EB25
101



教育關係に於ける左傾思想運動

目次

一、序 説……………一

二、我が國共產主義運動と教育關係に於ける左傾思想運動……………二

二、大學、高等、專門學校に於ける左傾思想運動……………五

イ、沿革……………五

ロ、學校内の左翼組織……………一〇

ハ、左翼的戰術……………二九

四、中等學校に於ける左傾思想運動……………三四

五、小學校教員の左傾思想運動……………三六

六、青少年の左傾思想運動……………三九

七、左傾の原因……………四四

八、結 語……………五三

附 錄 一、主要極左記念日一覽表……………五七

二、左傾運動並に思想關係主要用語略解表……………七



363.021

EB25
101

一、序 説

我が國に於ける左傾思想運動は近來益々廣く各方面に浸潤し、教育關係に於いては大學、高等、專門學校の學生生徒のみならず、中等學校生徒、小學校教員、青少年等にも及んでゐる。これは我が國將來の爲め、眞に憂慮に堪えざる所であつて、斯くの如き運動を防止し、斯かる惡思想の根絶を圖ることは實に刻下の急務である。

是が爲めに最も必要なる事柄の一つは、當事者がこの種の運動に關して、その眞相を詳知しておかねばならぬことである。即ち今日の左傾思想運動は極めて巧妙なる特殊の組織及び方法の下に行はれ、假面を被りたる合法的運動より地下潜行的の秘密運動に連つて居り、常に當局者の眼を掠めて其の策動を續けつゝあるのであるから、この運動の目的、内容、組織及び活動方法等に關する詳細なる知識なくしては、到底之を豫防し、阻止し、又之に關する指導を施すことは出來ないのである。

本篇は、かゝる警戒、豫防並に指導、監督の爲めの資料として、當事者の當然承知しおくべき、我が國共產主義運動の概要、學生生徒、小學校教員、青少年等の左傾思想運動の實情、特にその最近の傾向及び左傾の原因、経路等につき記述したものである。

尙、本篇は左傾運動の目的、綱領、方法等を具體的に記述した箇所もあるから、その取扱に關しては

細心の注意を拂はれ度いのである。

二、我が國共產主義運動と教育關係に於ける左傾思想運動

我が國今日の學生生徒、小學校教員及び青少年等の左傾思想運動は何れも過激なる共產主義運動であつて、單純なる學校内部だけの問題ではなく、日本共產黨及び日本共產青年同盟同盟又は共青其他の外廓團體の指導により、是等團體と全く同様な理論と方針とに據つて動いてゐるものである。この共產主義運動の中心をなす日本共產黨は、モスクワに本部を有し、世界的のソヴェート聯邦を造ることを目標として活動してゐる國際共產黨第三インターナショナルともいひ、コミンテルンと略稱すの一支部であつて、國際共產黨の指導原理たるマルクス・レーニン主義に基き、唯物史觀をとり、階級闘争を主張し、暴力手段によつて今日の社會組織を變革し、私有財産制度を撤廢して無産者の獨裁政治を實現せんとする秘密結社であり、常に社會を危殆に陥らしむるのみならず、實に我が國體の根本を危うするものである。

日本共產黨の指導の下に、特に青年層を目標として極左運動をなすものは日本共產青年同盟である。是は國際共產青年同盟キームの日本支部であつて、共產黨の貯水池又は豫備校と謂はれ、共產黨に對して黨員を供給し、黨と親子關係に立つものであり、特に學生生徒に働きかけ、青年學生の

動員に努めつゝある秘密結社である。

右の外、尙我が國に於いては黨同盟の外廓團體と稱せられ、共產主義運動をなすものがある。其の主なるものを挙げれば次の通りである。

團體名	摘要
日本勞働組合全國協議會(全協)	國際赤色勞働組合(プロフィンテルン)の日本支部。加盟組合十四
日本反帝同盟(反帝)	國際反帝國主義民族獨立支持同盟の日本支部
日本赤色救援會(赤救又はモップル)	國際赤色救援會の日本支部
日本プロレタリア文化聯盟(コップ又は文化聯盟)	加盟團體十二「學校内の左翼組織(8)」参照
日本勞農救援會準備會(勞救)	國際勞働者救援會の日本支部準備會
全國農民組合改革勞農政黨支持強制反對全國會議(全農全國會議)	
日本失業者同盟(失同)	

右の諸團體の多くは、共產黨の目的を支持し、共產黨の指導下に活動してゐる秘密の團體であつて、黨及び同盟と共に、今日迄再三の檢舉にも拘はらず、次々に再建せられ、絶えず青年學生等に働き

かけてゐるものである。

四

黨同盟と教育關係に於ける左傾思想運動とは、更に各節に於いても記す通り密接不離の關係にあるが、今試みに學生生徒の左傾思想運動を共產黨檢舉事件について概見すれば次の通りである。即ち我が國最初の共產黨事件である大正十年十二月の曉民共產黨事件及び大正十二年六月の第一次共產黨事件に於ては、未だ學生生徒の關係者は一人もなかつたが、其の後の三一五事件(昭和三年三月十五日)四一六事件(昭和四年四月十六日)及び昭和五年、六年、七年の各檢舉事件即ち毎年の大小檢舉事件に於いては、學生生徒にして起訴せらるゝもの、少き時も二三十名、多き時は七十餘名に達し、之に高等、専門學校以上の卒業生及び中途退學者にして事件に關係せる者を加ふる時は、相當多數に上るのである。然も是等インテリ即ち知識階級の關係者は年々増加の傾向にある。尙昭和七年十月三十日には熱海町に於て黨員の檢舉があると共に、全國的にも一齊に檢舉が行はれ、一〇三〇事件又は新生共產黨事件等と呼ばれてゐるが、この檢舉の結果數百名の者が起訴せられ、其の中には學生生徒も少くない。又この檢舉により、黨首腦者は一掃され、從つて又黨同盟は殆ど壊滅したかに見らるゝのであるが、今日迄の檢舉事件に徴するも、其の再建運動は檢舉の後を追うて次々に行はれ、その組織者たる黨同盟員を學生生徒、その他の知識階級によつて補充せんとし、又その運動資金を獲んが爲に、知識階級にシンパ(シンパサイザ)即ち共產黨同情者を求める等の運動を行つてゐる。然もこの事實は檢舉事件毎に増大して來てゐるのであつて、是等の點より見る

も、教育關係に於ける左傾思想運動は最も注意を要するものと言はねばならない。

三、大學、高等、専門學校に於ける左傾思想運動

イ、沿革

左傾思想問題の發生 學生思想問題は大正七八年頃に端を發してゐる。即ち大正七年十二月には世界の文化的大勢たる人類解放の新機運に協調し之が促進に努め現代日本の正當なる改造運動に従ふといふことを綱領として東京帝國大學に新人會が生れ、翌年二月には同様の趣旨を以て早稻田大學に民人同盟後に建設者同盟が創立された。是等の團體を先驅として漸次全國の大學、高等、専門學校に學生生徒の社會思想研究團體が出來た。大正十一年九月には七つの高等學校の社會思想研究會による高等學校聯盟が結成せられ、同年十一月には新人會、建設者同盟等を中心として全國の大學、高等、専門學校二十六校の社會科學研究會、數百の學生生徒より成る社會科學の研究宣傳普及を目的とする學生聯合會の成立を見た。併し、是等研究會は多くは廣い意味での社會理論を研究し、社會改造の手段を検討することを主とし、時には演說會を開いて時事問題に對する積極的態度を示す程度のものであつた。

學聯の成立 然るに學生以外の一般社會主義運動は漸次進展して、大正十年には曉民共產黨事件、

同十二年には所謂第一次共産黨事件が勃發して、是等の運動が學生生徒の思想研究團體にも大なる影響を與へ、漸次單なる讀書會、研究會の範圍を越えて實行的態度を示すに至つた。即ち學生聯合會は大正十三年九月その第一回全國大會に於て學生社會科學聯合會(學聯)と改稱し、更に又大正十四年七月その第二回全國大會に於いて全日本學生社會科學聯合會(學聯)又は(F.S.)と改稱したが、同大會のテーゼ(綱領)として「學生運動は無産階級運動の一翼としてマルキシズム・レーニズムを指導精神とするものなることを決定し、明瞭に極左的性質を現すに至つたのである。

研究會の禁止と其の非合法化 學聯はそのテーゼ發表以前に於ても、過激思想取締法案を紛碎せよの決議文を可決したり(大正十二年二月)全國軍事教育反對同盟を組織して活動する等の事實があつて、學生生徒にして其の本分を誤るものを生ずるに至つたので、本省では大正十三年末から翌年初めに亘つて高等、専門學校の社會科學研究會を解散せしめたのである。然るに大正十五年初頭に至つて、我が國最初の治安維持法違反事件として所謂京大事件(學聯事件ともいふ)が發生し、三十數名の學生生徒が起訴せられ、禁錮八ヶ月以上一年以下の刑に處せられた。是は嘗に學生運動として未曾有の大事件であつたのみならず、學生運動が單なる研究の範圍に止まらず、恐るべき計畫に迄進出してゐたことを表面に曝露するに至つたもので、その結果同年の高等學校長會議及び實業専門學校長會議の決議に於いては、遂に個人的研究をも禁止するの方針を採り、又大學に於いても、研究會には必ず指導教授を置き、他との聯絡を禁止し、且つ實行運動に参加することを禁じたのである。

である。

右の如く禁止せられた後は、學生思想運動は勢ひ地下的潜行的となり、秘密裡に讀書會(R.S.)と稱する社會科學の研究會を組織し、他面學聯に於いても學聯の名の下にする實行運動が不利となつた結果、表面上の運動に便する爲め、大正十五年五月以來、その別働隊として全日本學生自由擁護同盟(S.I.)なるものを組織し、一般學生生徒の共鳴を得易き、學内自治權の確立、言論、研究の自由等をスローガン(闘争標語)として左翼運動を大衆化し、成るべく多數の學生生徒を之に参加せしめんと努めた。

斯くして又學生生徒中より實際運動に参加するものを生じ、昭和三年の三一五事件に於いては學生生徒の關係せるもの三十二校百數十名に上り、其の結果、東京帝大新人會を初め、各大學の社會科學研究會を斷然解散せしめる方針を採つたのである。(但、新人會は秘密團體として昭和四年十一月迄存続した)。然るに又昭和四年の四一六事件に於ては學籍の判明せる關係者のみでも四十六校百七十餘名に上るに及んで、學生生徒の共産主義運動が實社會に於ける極左運動と絶えず密接なる連絡を保ち、常にその軌を一にしてゐることを益々如實に示すに至つた。三一五事件當時に於いては、學聯に屬する團體數及び關係學生生徒數は可なりの多數に上り、又別に女子學聯(全日本女子學生社會科學聯合會)も組織せられてゐた。

學生テーゼと學聯の解體 昭和三年四月より學内左翼團體は讀書會の外に自由擁護同盟の名の

下に結集し、その組織の擴大強化に努めてゐたが、その運動の指導者として活動してゐたのは學聯であつて、専ら學生生徒を極左的に教育し動員することを主なる目的としてゐた。然るに三一五事件後、引續く檢舉により、組織分子を失つた共產青年同盟は、速に之が大量的補充をなし、その組織を確立する必要に迫られて、學聯中の優秀分子を同盟に吸収し、學生層を一般極左運動の有力なる活動體となさんとした。即ち學生のみの左傾運動を認めずとし、學聯を一般プロレタリア運動の中に解消せしめる方針を採つたのである。この方針は「學生テーゼ」と稱せられ、この方針に基いて昭和四年三月頃から、各學校内に「學生グループ」なるものが設置せられた。是は日本共產青年同盟の直接指導下に、學内左翼各團體即ち讀書會並に黨、同盟の外廓團體たる反帝、モップル、第二無新無青等の學内班の統一的指導體として、學聯會員中の優秀分子によつて組織せられたものである。是と同時に學聯は暫時學外一般左翼團體と學生との間に於ける協議連絡の機關に止まつてゐたが、遂に同年十一月七日ロシア革命記念日をトし、東京帝大の新人會と共に自ら解體したのである。

エーヂェント・グループ 右の如き學生グループの組織により、同盟は一時學生生徒によつて、その組織の大部分を占められるに至つたが、斯くの如きは同盟本來の組織方針に反するものとして、昭和五年一月この學生グループは解體せらるゝに至つた。そして爾後一時的に「學内無産團體協議會」なるものが作られ、學内活動の統一を圖つて來たが、總て學内最高指導部確立の必要に迫られ、同年九月頃から同盟の外廓團體として「エーヂェントグループ」(A.G.)なるものが組織せられ、共產青年

同盟の候補者(エーヂェント)の地位にある學生生徒を以てその構成員とした。かくして同盟は再び労働者を中心に組織せられたのである。

新學生テーゼ 昭和六年五月更に右の方針を變更して、革命的學生の同盟参加を認める事となつたのみならず、其の大衆化を圖るに至つた。この新方針は「新學生テーゼ」と稱せられ、之に基いて各大學、學校内のエーヂェントグループを廢して再び同盟の細胞を組織し、之を以て學内の指導體とし、同時に一般學生大衆の動員を目標として、黨、同盟の外廓團體の學内班の外に、新に自治學生會、學生新聞、學生消費組合、自主的スポーツ團等を學内に設ける方針を打ち立てた。

斯かる運動方針の變更に従ひ、近來各大學、高等、専門學校等で發覺する左翼組織の多くは、右の如き組織を備へ、學生生徒にして同盟のメンバーであるものが急激に増加の傾向にあるのみならず、同盟の有力なる地位を占めるに至つてゐる状況にある。

尙昭和六年十月二十四日結成せられた日本プロレタリア文化聯盟(コップ)の影響により、所謂文化サークルが盛に設けられるに至つてゐること、又黨、同盟の機關紙の大衆化に伴つて、從來の無新班、無青班の代りに赤旗友の會、無青友の會が設けられるに至つてゐること、シンパサイザー(シンパ)と稱し、黨、同盟に金錢住宅等を提供して、その運動を援助する共產黨同情者が増加し、その組織網が出来てゐること、更に又二三の大學に於いては黨細胞が組織せられてゐた事實のあつたこと等は、最近特に注目すべき事柄であつて、是等は何れも大衆化、大衆動員を目標とする黨、同盟の新方針の

現れであると言へるのである。

ロ、学校内の左翼組織

学校内に於ける左翼組織は、單一の場合もあれば又數個ある場合もある。左翼學生を多數に擁せる学校にあつては數個の組織を持つのが常である。そして組織の各メンバーは一の組織に屬するのみならず、他の組織へ二重三重に加盟してゐる場合が多い。若し一の學校で何等かの左翼組織が結成せられた場合は、其の後左翼學生の數が増加するに従ひ、最初の組織を媒介として他の組織が次々に作られてゆくものである。

最近に於ける學内左翼組織の主なるものを挙げると左の如くである。

- 1、共産青年同盟學校細胞
- 2、赤旗友の會。無青(友)の會
- 3、自治學生會
- 4、讀書會(R.S)。プロレタリア科學同盟學校班
- 5、赤色救援會(モップル)學校班
- 6、反帝同盟學校班
- 7、學生全協支持團
- 8、プロレタリア文化聯盟加入團體の學校班。附文化サークル

9、學生消費組合

10、自主的スポーツ團

尙、是等の組織の中には日本共産黨の運動資金調達を有する「シンパ」網が介入し、又左翼學生全體の主義宣傳の機關紙として「學生新聞」が發行されてゐる。その他學校内の合法團體に左傾分子を入り込ませ、之を左翼化せんとする運動、即ち所謂フラクション活動が行はれてゐる。

以下是等の各組織について略説することとする。

(1) 共産青年同盟學校細胞

左翼的意識の濃厚な學生がゐる学校にあつては、昭和六年五月以降、共青學校細胞が結成されてゐる。そして數名の細胞員を有する学校にあつては細胞書記局が作られ、組織部、宣傳煽動部、技術部、フラクション部、機關紙部等の分擔を決めて活動してゐる。

この學校細胞は學校外の左翼的勢力を學校内に導入する最有力の機關であり、又學校内の左翼的組織及び運動の最高指導體をなしてゐる。そして之が爲めには機關紙(學生新聞)を發行してゐる。

學校細胞の任務とする所を新學生テーゼから見ると、日本共産黨、日本共産青年同盟の影響を學生層に行き亘らせ、一面に於ては一般學生層を中立化に向はせ、他面に於いては進歩的革命的學生をプロレタリア運動へ支持参加せしめ、更に進んで革命的學生を養成するといふのである。そし

て細胞のこの任務は、今日の學生左傾運動の事實に徴すれば實際化されてゐる狀況である。又新學生テーゼは細胞員としての資格、即ち同盟加入の條件を明示してゐるが、それによると、共產青年同盟の綱領を承認し、その下に活動せんとする意志を持つて居る學生は全部同盟に加入し、細胞に参加する資格があるとしてゐる。即ち學生の同盟への加入は從來と異なり、極めて容易となつてゐる。今日迄にこの細胞の發覺した學校は、昭和七年十一月末の調査では、大學十七、高等學校十一、専門學校十六、計四十四校に及んでをり、その細胞員も相當多數に上つてゐる。尙最近、共產黨細胞の出來てゐた學校も二三あつて、何れも大學である。

(2) 赤旗友の會。無青Y友の會

日本共產黨中央機關紙、赤旗の讀者班を赤旗旗友の會、日本共產青年同盟機關紙、無産青年の讀者班を無青Y友の會といふ。是は從來無新班及び無青班と呼ばれてゐたものに相當する。右機關紙の配付は、黨及び同盟の細胞がある學校に於いてはその機關紙係が擔當し、然らざる學校に於いては、夫々の責任者があつて之を受持ち、學部別、學科別、クラス別の代表者の手を通じて一般の友の會のメンバーに渡される。それと同時に、メンバーは紙代及び基金等を提供する仕組である。新聞は一讀後多くは焼却することになつてゐる。この事は他の秘密印刷物に於いても同様である。赤旗及び無青の配付線は、同時に黨及び同盟の組織の觸手が伸びる通路であるから特に警戒を必要とする。

(3) 自治學生會(自學)

昭和六年五月の新學生テーゼに基き、共產青年同盟の補助組織として學校内に新しく出來たもので、其の目的とするところは、學生の廣汎な大衆的「日常闘争機關」となすにあつて、「學生大衆の一切の不平不満は此の組織によつて掲げ」「學内に於ける一切の闘争はこれを中心として行はん」とするものである。従つてそのメンバーは、豫め「高度な規律とか、マルクス・レーニン主義の承認とかいふ様なものを必ずしも持つ必要はなく、たゞ學生生活に不平不満を持ち、學生の利益の爲めに積極的に團結して闘争するの意志さへ持つものならば、誰でも自學へ加入が出來るとする。そして彼等には學内闘争を通じて「プロレタリア的教育を與へて行かうとするのである。

各學校の自學では、夫々機關紙或はニュースを發行して闘争激發に努めてゐるが、某大學の同盟細胞の機關紙「X戰士」は左記抄録の如き自學の行動綱領を載せてゐる。之を見れば自學並に學生左傾思想運動の如何なるものかの一斑を知ることが出来る。

講義時間割作製に對する學生の参加

科目選擇の自由、研究室の開放

圖書館書籍の充實

授業料値下、教科書五割値下

就職の保證獲得

學内御用商人の追放
××學生消費組合の學内公認
御用共済會の打倒
學生課守衛制度の廢止
資本家的思想善導絶對反對
軍國主義的教育反對、即時軍事教練の廢止
學内反動團體の撲滅
マルクス・レーニン主義研究の自由
赤色××團の確立
進歩的職員、學生の處罰追放絶對反對及びその取消
學内言論、集會、出版、結社の自由
赤色スポーツ團の確立
學友會々費全廢
ブルジョア教育の破壊
學校行政を革命的學生の手へ
日本××××××の旗の下に

而してこの最後の綱領こそ彼等の究極目的とするところであるが、右の中に於いても、又彼等の常に掲げる數多のスローガンの中に於いても、その宣傳煽動を効果的ならしめる爲めに、一般學生を惹き付け易いやうな項目を幾つか掲げておるのが常である。

今日迄に自學の發覺した學校は、昭和七年十一月末の調査では、大學十六、高等學校十一、専門學校三、合計三十校である。名稱は必ずしも自治學生會と稱せず、學生自治會とも稱してゐる。

自學は本來大衆團體としてつくられたのであるが、爾後その行動は兎角極左主義に流れ、ために一方、學校當局からは嚴重に警戒され、他方、一般無色の學生からは厭離されて、その存在理由を喪失するに至つた。其の結果、共青に於いては、自學に代つて運動展開の大衆團體として、Y友の會及び合法的團體利用の方針を打立てた模様である。

(4) 讀書會(R.S.)、プロレタリア科學同盟學校班

讀書會はマルクス・レーニン主義の研究團體であり、嘗ての學聯時代より存在したものであるが、黨の影響下にある團體たるプロレタリア科學同盟(科同)の活動に照應して、昭和七年四五の頃より科同の學校班に解消する方針をとり、既に解消を終つた學校も存在する。併し大多數の學校に於いては、今日尙讀書會の名の下に研究が行はれてゐる。讀書會は五六名宛の少數會員を單位として班を作り、各班は集合所を轉々と移動せしめて研究会を開催する。その場合には、チューターがあつて之を指導し、左翼文献をテキストとし、或は時事問題を捉へて研究の對象とする。

尙この讀書會は初歩的な左翼團體であつて、他の左翼團體の貯水池の役割をつとめるもので、會員にして相當高度の意識を持つ様になれば、他の左翼團體に加盟せしめるやうになつてゐる。

(5) 赤色救援會(モッブル學校班)

日本赤色救援會(モッブル)は昭和三年四月設立された解放運動犠牲者救援會の後身で、昭和五年八月國際赤色救援會に加盟し、同時に現在の名稱に改めた秘密團體である。このモッブルは、労働者、勤勞農民、無産市民に對する暴壓に反對し、階級闘争のすべての犠牲者と其の家族を政黨政派の別なく救援することを目的とし、共產主義運動の犠牲者、即ち檢舉された者に對する各種の差入、法律的援助等の爲めに運動し、その家族に精神的慰安及び物質的援助をなし、且つ社會に向つて救援及び抗議の訴へをなし、その傘下に集まる大衆を組織し教育し、之を自己の陣營に引込み、遂に極左運動自體に誘導せんとするものである。

モッブル學校班の主要任務は、解放運動犠牲者のために救援資金を學校内で蒐集するにある。そして之が爲めには本部發行の救援新聞、各支部發行の救援ニュース等を配付して、紙代及び救援金を徴收し本部へ提供する。他面モッブル班は學校内の左翼學生の救援運動をも任務としてゐる。即ち學校内に被處罰者なり被檢束者なりがある場合には、直に救援運動を起して知人と否とに拘はらず學友の参加を求める。同情心と感激性に富み、特に友情といふことを重んずる多數の學生は之に参加する。斯くて處分軽減の歎願を試み、或は處罰反對の抗議を企て、遂には紛擾騒動

を惹起することすらある。

(6) 反帝同盟學校班

反帝同盟とは、昭和三年八月帝大生其他の學生が中心となつて組織した戦争反對同盟(戦反同盟)の發展したもので、昭和四年十一月七日ロシア革命記念日をトし國際反帝同盟(國際反帝國主義民族獨立支持同盟)に加盟した秘密團體である。

反帝同盟の主なる目的は帝國主義戦争反對と植民地民族解放運動支持とである。

學校班に於いては、本部發行の反帝新聞、その他ニュース、パンフレット等を購讀する外、ニュースピラ等を作製して之を學校内に配付又は撒布し、又同盟基金を徴收し、常に軍教反對、帝國主義戦争反對等を闘争題目として策動を續けてゐる。殊に昭和六年滿蒙事變以來、滿蒙侵略戦争反對(日報)なるものが本部より發行せられ、盛にその他のピラ、印刷物等と共に配付せられる。又建國祭、陸軍記念日、入隊日等を選んで宣傳煽動のピラの貼撒布等を行ふが、之は他の左翼諸團體が所謂左翼記念日に特に力を入れてデマを行つたり、ピラを貼撒布するのと同様で、注意を要するのである。尙我が國に於けるこの反帝同盟は、その主體を構成する分子が大部分學生又は曾て學生であつたところの青年であることを特色とし、其の上、同盟費も學生以外には納付するもの殆どなく、主として學生の基金によつて諸経費を支辨してゐるやうである。

(7) 學生全協支持團(全支)

是は日本労働組合全国協議会(全協)の財政的、事務的、技術的援助を任務として昭和五年一月頃東京地方に秘かに組織せられた都下學生労働新聞支持團準備會の發展したものである。右の名稱の外、全協支持グループ、全協支持同盟等とも稱し、全協の機關紙「労働新聞」の購読資金醸出、全協分子の秘密會合或は宿所の爲めの住宅、部屋の提供、宣傳ビラの印刷作製配付、全協行動隊への参加等を目的とする。この全協支持團の中心勢力は、昭和六年七月頃設立の東京學生全協支持團で、機關紙「支持戦士」を發行し、各學校の支持團に於いても機關紙「ニュース」等を發行してゐた。この支持團の發覺した學校は、昭和七年十一月末の調査では、大學十五、高等學校四、専門學校五、計二十四校である。

(8) プロレタリア文化聯盟加入團體の學校

從來知識階級を主なる對象とし、マルクス主義的教化の普及宣傳を目的として、夫々の分野で活動してゐた我國のプロレタリア文化運動諸團體、即ち昭和三年に結成された全日本無産者藝術團體協議會(ナッブ)を初め、戦旗社、プロレタリア科學研究所、新興教育研究所、日本プロレタリア・エスベランチスト同盟、日本戰闘的無神論者同盟等が次第に歩み寄つて、各團體の連絡を充分にし、工場農村等の大衆と密接に結び付き、廣汎なる大衆の基礎の上に立つプロレタリア文化諸團體の綜合的中心組織として、昭和六年十月末結成されたのが、この日本プロレタリア文化聯盟文化聯盟又はコップである。之に加盟してゐる團體は現在次の十二である。

1. 日本プロレタリア作家同盟(ナルブ)―國際革命作家同盟(モルブ)の日本支部

- 昭和四年二月創立、機關紙「文學新聞」、機關誌「プロレタリア文學」
2. 日本プロレタリア演劇同盟(プロット)―國際労働者演劇同盟(モルト)の日本支部
昭和四年二月創立、機關紙「演劇新聞」、機關誌「プロレタリア演劇」
3. 日本プロレタリア美術家同盟(ヤップ)―國際革命的美術家同盟の日本支部
昭和四年一月創立、機關紙「美術新聞」、機關誌「プロレタリア美術」
4. 日本プロレタリア映畫同盟(プロキノ)
昭和四年二月創立、機關紙「映畫クラブ」、機關誌「プロキノ」
5. 日本プロレタリア寫眞家同盟(プロフォト)
昭和六年十二月創立
6. 日本プロレタリア音楽家同盟(P.M.)
昭和四年四月創立、機關紙「音楽新聞」
7. 日本プロレタリア・エスベランチスト同盟(プロ・エス又はボ・エウ)
昭和六年一月創立、機關誌「カマラード」「ボ・エウ」
8. 日本プロレタリア科學同盟(科同)

昭和四年十月プロレタリア科學研究所として創立、昭和八年一月組織を變更し、同時に改稱す。機關紙「科學新聞」(未刊)、機關誌「プロレタリア科學」(われらの科學)科學開

拓者)

9、新興教育同盟準備會(新教)

昭和五年八月新興教育研究所として創立、昭和七年八月より新興教育同盟準備會と稱し、同盟組織に變更の準備中である。機關紙教育新聞、機關誌、新興教育)

10、日本戰鬪的無神論者同盟戰無(國際プロレタリア無神論者同盟(I.P.F.)の日本支部)

反宗教の同盟であつて昭和六年九月創立、機關紙、われらの世界、機關誌、戰鬪的無神論者)

11、無產者産兒制限同盟(プロB.C.)

昭和六年六月創立、機關誌、産兒制限運動)

12、共立圖書回讀組合

昭和六年五月プロレタリア圖書館として創立、昭和八年一月改稱。機關誌、讀書の友)

コップは昭和六年十二月より機關紙としてプロレタリア文化を發刊した外、大衆の友、働く歸人、小さい同志(未刊)、労働者畫報(未刊)等諸種の出版をなし、(是等は從來ナップ、戦旗社等より發行されてゐた機關誌、ナップ、戦旗、婦人戦旗、少年戦旗等に相當するものである、今や我國の共產主義運動の領域では重要な役割をなしてゐる。殊に、この中には多數の知識階級が加入してゐるのみならず、その下には廣汎なサークル組織(文化サークル)の項参照)を持ち、益々大衆の間にそ

の根を張りつゝある。又最近までの事實から見るとは、日本共産黨と極めて密接な關係を有し、コップ關係者にして共産黨員として檢擧されたものも少くない。

コップの主要任務としては次の七項が擧げられてゐる。

- 一、ブルジョアジーの文化反動政策との闘争
- 二、ブルジョアイデオロギーとの闘争
- 三、労働者、農民、其の他の労働者の日常的文化的、生活的欲求の充足
- 四、文化教育施設のブルジョアの獨占との闘争
- 五、植民地、半植民地に於ける帝國主義文化支配との闘争
- 六、ソヴェート社會主義文化の擁護
- 七、文化活動のための労働者幹部の養成

右の主要任務から次の如き基本任務を規定してゐる。

- 一、ブルジョアジー、ファシスト及び社會ファシストによる文化反動との闘争
 - 二、労働者、農民、其の他の労働者の政治的、經濟的任務の系統的啓蒙
 - 三、労働者、農民、其の他の労働者の文化的、生活的欲求の充足
 - 四、マルクス・レーニン主義の上に立つプロレタリア文化の確立
- 而して日本戰鬪的無神論者同盟、プロレタリア科學同盟、プロレタリア・エス・ベランチスト同盟、プ

ロレタリア演劇同盟、プロレタリア映畫同盟、其他コップ加盟團體の學内班が組織せられてゐるものも相當多く、是等は夫々本部からの機關紙を購讀支持する外、學内班に於ても機關紙、若くはニュース、ピラ等を作製し、之をメンバー等に配付してその左翼化を圖つてゐる。右の内、科同の學校班は、その性質上、同一の目的を有する從來の讀書會を之に解消したところもある(讀書會の項参照)。又プロエスの學校班は、單にエスベラントの研究に止まらず、エスベラントを通じて國際的にプロレタリアが連絡をとることをその主要任務としてゐるものである。又戰無に於ては、その反宗教の闘争として、彼等は、宗教は人間を政治的社會的抑壓に對して逃避的ならしめ、従つて階級闘争を妨げる所の民衆の阿片である、として極力宗教を排撃する。そして、反宗教闘争はプロレタリア革命の爲めの闘争の一翼として階級闘争の線に沿ふて進まねばならぬといひ、一切の宗教的行事を排撃し、宗教學校の廢止、學科目としての宗教科又は學生宗教團體の廢止、神社、寺院への學生生徒の參拜強要反對等を唱へてゐる。

文化サークル コップの學校への活動はその學内班を作り、更に進んで文化サークルを組織することである。このサークル組織はコップ大衆化運動の爲めに作られた戰術であつて、從來學校内にある文學研究會、劇又は映畫の研究會等に働きかけるは勿論、文藝、政治、經濟、哲學、科學、スポーツ、棋、將棋、手藝等、何でも學生生徒の好むところに従つて各種のサークルを作り、或はコップ及びその加盟團體の機關紙を持ち込み、或は學校内の左傾分子が裏面にあつて之を指導し、次第に之を左翼的

に誘導し行かんとするものである。従つて又、各サークルの名稱も文學座談會、映畫クラブ、寫眞同好會等大衆の近づき易い名稱を選び、メンバーも左翼意識の相當深いものばかりでなく、なるべく一般大衆を包含すべきであるとなしてゐる。従つて表面合法に見える學校内にある學生生徒の各種の會に對しても、十分なる監督が必要なのである。

(9) 學生消費組合(學消)

學消の任務とする所は、一般學生に消費經濟の方面から極左思想を注入し、或は極左團體に事務所を提供し、秘密出版物の取次を爲す等、左翼運動の援助をなす外、學校にストライキ、紛擾等ある場合には階級闘争の兵站部の役割をすること等である。

學消の店舗は學校附近に設けられ、學生が店に出て品物を賣つてゐるが、店の二階等は常に左翼學生の集會所並に連絡場所に利用せられ、其處で秘密の印刷物を作製したり、禁止出版物の取次が行はれる。東京には此の種の學生消費組合があり、大學、その他の學校附近數個所に支部を設けて居る。昭和七年四月警視廳に於て、是等學消事務所の一齊檢索を行った結果、赤旗、無産青年、勞働新聞、其他發禁の圖書、雜誌、新聞等二、一六三部を押収した事實がある。

この外學生大衆の要求を名として、學生消費組合、共濟會等と稱し、内容は右と同様の性質を持つ、左翼的傾向のある團體を設けんとするの計畫を立て、紛擾の原因となつたことが少くない。

(10) 自主的スポーツ團又は赤色スポーツ團

國際的にはモスクワに本部を有する赤色スポーツインターナショナル(スボルチンテルン)があり、解放運動の闘士を養成し、更にロシアに在つては五ヶ年計畫の爲めに必要なる前衛部隊を育てることを目的としてゐる。我が國に於いては赤色スポーツ團の名はあるが、未だこの支部となつてゐぬのみならず、確立されてもゐない。

左傾學生にあつては、曾つては、スポーツを以て青年學生の眼を社會の問題から覆ふ爲めにブルジョアが利用するものであるといひ、或はスポーツにより青年の身體を鍛練し、帝國主義戦争に利用せんとするものであると稱して、盛にスポーツ排撃をしたのであるが、今日ではスポーツを利用して學生大衆に極左思想を注入し、之を左翼的に動員せんと計畫してゐる。例へば學友會又は校友會に屬する各種の運動部は之を總て御用スポーツと稱して排撃し、今日の選手制度の如きを全廢し、一般學生のみのスポーツ團を作らんとしてゐる。

而して今日各學校に行はれてゐる各種の運動は、兎角選手に獨占せられる傾向があるのみならず、校友會費中多額の費用が運動部に費され、その他應援費を徴收されることもあるので、一般學生の不滿を招き易い。この點が左傾學生の乗ずる所となつて、選手制度の撤廢、運動競技の一般化、對校試合の廢止、學友會費の値下等が常に紛擾の問題となり、遂に學友會の廢止にまで至つた例がある。

(11) シンパ網

所謂シンパ網とは黨同盟の運動に對する積極的同情者シンパサイザーの組織を謂ひ、共產主義運動に對して金錢、住宅、會合場所等を提供する人々を總稱するのである。我國の共產主義運動は四・一六事件以後海外よりの運動資金調達途が杜絶し、之が爲めに黨及び同盟はその中央部に技術部(テク部)なるものを設けて、黨及び同盟の運動に對する同情者より物質的援助を求めた。この技術部は後に資金部、住宅部、家屋部に分割されたことはあるが、依然として存続し、同情者を統轄し、それ等の人達より共產主義運動の爲めに資金、住宅、會合場所(アチト)、郵便物送付所(アドレス又はアド)物品等を提供せしめつゝある。このシンパ網は我國の共產黨独自の組織であるといはれてゐる。

學生の左翼組織の中には、その上部機關内に「テク部」或は「資金部」と稱せられるものがあり、之は種々の名目の下に共產主義運動の爲めに、左翼學生から毎月一定金額(一圓より多きは數十圓)或は臨時費を徴收し、又は運動者の宿泊する住宅、會合場所、物品、アチト、アドレス、ポスト(非合法文書の分配の場所)等を提供せしめてゐる。殊に黨及び同盟は、學生はプロレタリアに非ざるを以て直接プロレタリア運動に参加するよりも、寧ろ財政的に之を支持するが學生として最も適した仕事であり、任務であるといふ見地から運動資金の源泉として學生層を重視してゐる模様である。昭和七年三四月の頃に、都下の二三の大學に於ては、各校毎月三四百圓以上の巨額が學生中より徴收提供されたといふ事實すらあつた。

(12) 學生新聞

所謂學校公認の學校新聞とは別のものである。即ち學校内の左翼學生或は團體が一般學生に極左主義を宣傳し、不穩なる煽動をなし階級的意識を強め、鬭争心を煽らうとする目的の下に、秘密裡に印刷(多くは謄寫版印刷)配付するものである。

學生新聞は所謂曝露戰術を用ひて學校内部の事情を誇大に悪宣傳し、一般學生の不平不滿の喚起に努め、或は社會情勢の左翼的解剖批判を試み、左傾思想の注入に努めてゐる。その印刷配付は極めて巧妙であり、事實配付されてゐることは判明してゐても、久しく其の行爲者の發見出來ぬ例が多い。今日迄に學生新聞の發見された學校は昭和七年十一月の調査では大學十八、高等學校二十、専門學校七、計四十六校に上り、多くは共青學校細胞或は自治學生會の機關紙として發行されてゐた。

(13) 合法的團體へのフラクション活動

左翼學生の左傾運動は非合法的團體たる前述の左翼團體を以てする許りではなく、時には所謂フラクション活動を通じて合法的團體を以てする場合もある。各學校には多數の合法的團體がある。例へば校友會、學友會、運動部、文藝部、辯論部、購買部、クラス會、研究會、其の他趣味娛樂の會等々がある。是等は概ね學校職員が會長或は部長として指導監督し、委員たる學生によつて事業の計畫及び實行がなされてゐる。そしてこの學生委員の決定は、多くの場合選舉によつてゐる。

左翼學生或はその團體は、この種の合法的團體を自己の運動に利用するために、常にその中樞機

關の乗取りを企てるものである。そしてその方法としては、豫め學生委員の選舉に際して自己の同志或は自己の傀儡となり得る學生を立候補せしめ、巧妙なる選舉運動によつて當選を獲得するか、又は事後に當選委員を懐柔して自己の陣營に誘致するか、何れかの方法がとられる。

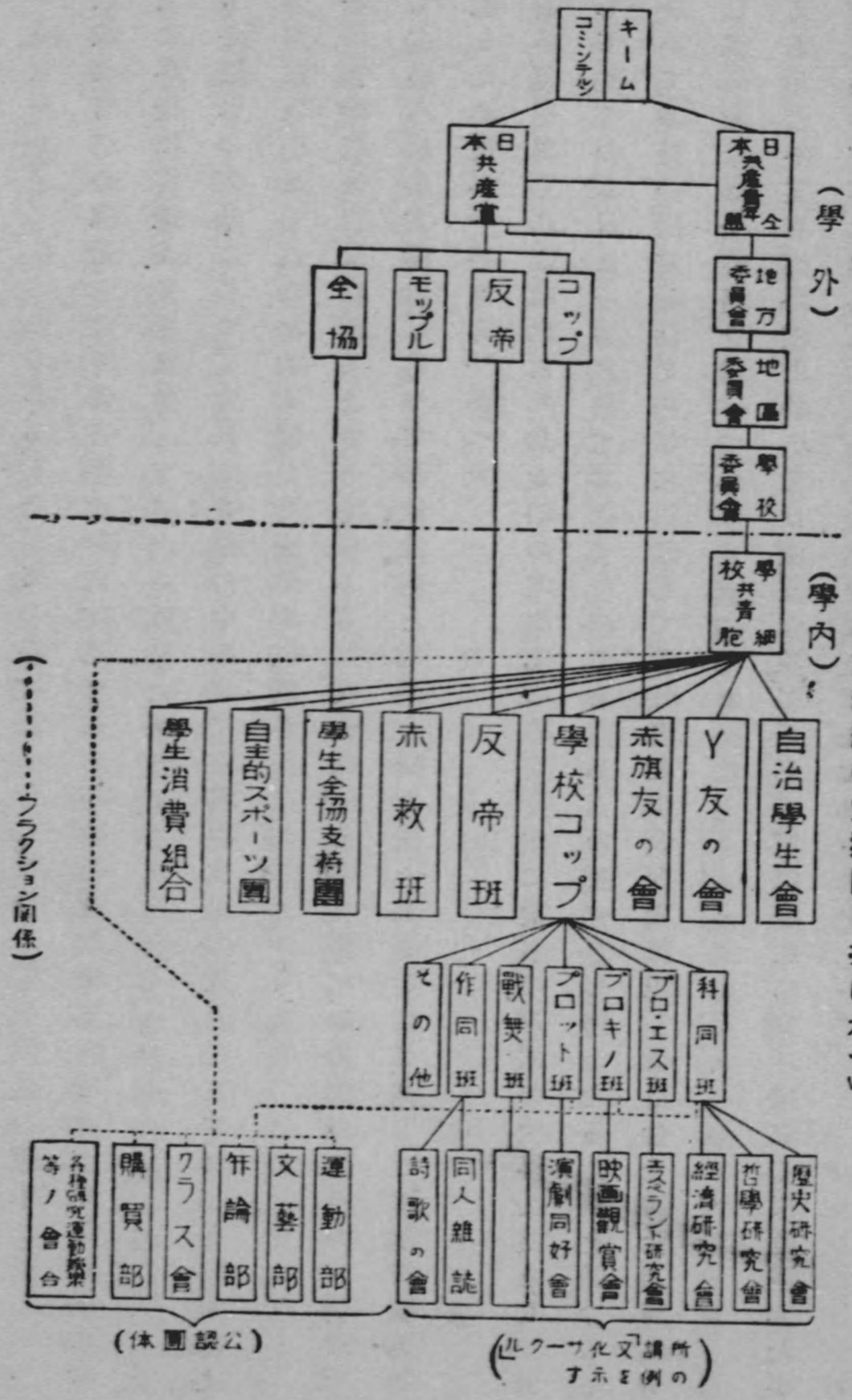
もし斯かる方法によつて、合法的團體の中樞部に左翼學生が潜入したとすれば、その團體は左翼的方向に索引せられ、合法的團體の非合法的運動が行はれることとなる。このことは大正十三年學聯の盛時以來行はれたことで、各學校とも校友會、殊にその文藝部、辯論部の委員が左翼學生によつて占められ、事業遂行に當つて學校當局と圓滑を缺き、度々葛藤を生じ、甚しきは學校騒動をさへ惹起した事實が一再ならずあつた。

近い例を挙げれば、昭和六年某大學の某學部の學友會内に數名の左傾學生が委員として潜入し、そして、是等の委員は一方に於て、共産青年同盟方面からの適切且つ強力なる指導を受けつゝ、他方に於いて多數の同僚委員を巧妙に操縦して監督者たる會長を無視し、委員會全體を左翼的方向に推し進め、遂には全委員を舉げて學則を蹂躪するに至らしめた事件があつた。

又昭和七年某高等學校に於いては、校友會理事として左翼學生の支持擁立して選舉した學生を、學校當局が理事に任命しなかつた爲めに、遂に盟休事件を惹起した。

斯かる事件は左翼學生のゐる學校にあつては屢々起るのであつて、合法的團體への左翼學生の潜入については十分に警戒を要する。殊に最近に於いては、コップが所謂文化サークルを學校内

に確立する必要からして、既設の合法的團體中樞部への左翼學生の潛入を計畫し、又左翼學生による合法的團體の設立を企圖しつゝあつて、既設或は向後の合法的團體については、監督者は細心の注意を要するであらう。〔以上の左翼諸組織の定型圖を次に示す〕



ハ、左翼的戰術

左翼學生の運動には巧妙なる方法が用ひられる。所謂戰術である。戰術は彼等の呼稱する所によれば、世界的經驗の攝取に基いて作られるものであり、その形式も終始一様ではない。常に新機軸を工夫して運動を展開し、人の意表に出づるのが常である。然し、その基本的形式は大體に於いて一定してゐる。今それ等の二三について説明して見よう。

組織 左翼學生は研究及び運動をなすに際し、先づその土臺として組織を作るものである。この組織は學校内部の學生が自然發生的に作る場合もあれば、又外部の左翼分子が意識的に學生をして作らしむる場合もある。そして、一たん左翼組織が學校内に出來、會員が増加すると、馳て又この組織を通じて他の左翼組織が移植されることとなる。若し是等の組織が発覺し、關係學生が學校或は警察當局によつて取調を受けることとなると、彼等は努めて同志を隠蔽し、組織再建のために何人かを残すやうに工夫する。従つて學校當局が組織關係者の凡てを處置し、左翼學生を清掃したと思ふ場合にも、往々にして何人かの残存者がある。そしてこの残存者は組織の再建を進めてゆくものである。若し残存者が無い場合には、外部の左翼分子即ちその學校の卒業生、或は附近の學校の生徒又は左翼組織のメンバー等によつて組織再建が企てられる。夫れ故學校は何時如何なる場合にあつても、學校内及び學校外の思想狀勢について注意してゐなければならぬ。

絡連 左翼運動は凡て非合法であるが爲めに、その通信、出版物、金錢等の授受を巧妙秘密なる連絡

方法を以つてしてゐる。

例へば郵便物については、直接に送附せず、アドと稱する宛名又は通信所を友人の下宿、特定の家等に豫め打合せの上定めておく。時には中間に一人の仲介者があつて兩者の取次をする場合があり、全然不在の人名を用ひて行ふこともある。又發信人も公共團體、其他信用すべきものであるかの如く装ふこともある。其の他出版物も普通の新聞紙の中に混入して送つたり、鐵道便により野菜か何かの如く装ひ、箱詰として驛止め等とする場合もある。又街頭連絡と稱して、豫ねて定めたる場所に密會して印刷物、金錢等の授受をすることもある。未知の所謂同志が夫々責任者等から場所及び相手の特長を指示されてゐて連絡することもある。この場合姓名はお互に明かさないので常であり、もし明かす場合は所謂ペンネームを用ひる。尙又近來エスベラントを以て通信を行ふことがある。是は他の外國語の如く普及してゐない爲め、比較的發覺の虞れが少いからと思はれる。

メンバーの獲得とその教育 この問題は左傾學生の常に苦心努力してゐるところであつて、平素から注意して學友の言動、氣質、傾向を観察しておき、或は性向調査表の如きを作製しておいて、機會を見て散歩に誘ひ、或は會談をなし、又書籍、新聞、雜誌等を貸與して漸次に引入れる。又學友の興味、趣味等から之に近づき、之を誘惑し、漸次に發禁の無青、赤旗、其他の非合法印刷物を貸與してその反響を見、之を教育してゆく。この教育については、教育コースを作り、テキストを選び、次第に易よ

り難に序を追うて、左翼理論、左翼意識を植えつけ、讀書會、其他の左翼組織に引入れるのである。

宣傳煽動 一般學生大衆に對する宣傳煽動の普通の方法はビラの貼撒布である。多くは學校内及び學校附近に於いて行はれるが、演習、旅行等の機會に巧に行はれることもある。學校内に於いては教室、食堂、寄宿舎、便所等に貼撒布又は放置する。便所等の樂書きも利用する。多くは夜間又は早朝に行ふが、時には晝間でも之を敢行する。特に左翼組織中に行動隊と稱する一團を作り、之に屬するものが行ふこともある。尙是等を行ふ場合には、ビケ(見張り)を置いて警戒する。又公然と學校内に於いてデモ(デモンストレーション)、示威運動を行ふ場合もある。多くは左翼記念日、其他學校内に何等かの事件がある場合に行はれ、盛にビラが撒布される。随つて所謂左翼記念日を豫め知つておくことは、この方面の取締に必要なことである。

盟休紛擾事件 今日迄に發生した盟休事件、紛擾事件により、如何にして紛擾から盟休にまで展開されてゆくかを概略記して見よう。

學校の中に互に連絡のある何人かの左傾學生があり、特に何かの左翼組織が出来るやうになると、彼等は一般學生が學校や學友會や運動部等に對し、如何なる不平不満を持つてゐるかに注意する。鬭争題目として相當有力な不平不満があれば、それを取り上げてストーヴの端で話し合つたり、運動場での雑談の話題とする。又辯論部で絶叫したり、學校の新聞、雜誌で痛論する。一般學生に反響があると見れば、それを問題に有志の座談會を開き、或は演說會やクラス協議會や文化團體

の協議會等を開く。斯くして協議が決定されれば、要求嘆願書を作製して當局に提出する。

學校當局は勿論斯かる形式の要求嘆願をば受け容れない。すると、彼等は愈よ止むを得ずと稱して學生大會を開く。勿論此の種の學生大會を許す學校はないのであるが、彼等は勝手に、又學校の制止も聽かないで之を開く。そして人數の多少に拘はらず學生大會と稱し、豫て用意の要求決議書を全校生徒の名に於て決議し、何人かの代表者が之が携へて校長の所へ交渉に行く。その決議の内容は多くの學生を惹き付け易いやうなものを選ぶのが普通であり、又それは彼等の常に行ふ戰術であるが、學校としては無論容認し得ないやうなものが多い、例へば次のやうなものがある。

- 一、校友會費五割値下
- 一、授業料の三割値下
- 一、選手制度の廢止
- 一、左傾生徒の處分の輕減
- 一、除名者の復校を即時許可すること
- 一、クラス會議開催の自由を認むること
- 一、恒常的生徒の意志代表機關を公認すること
- 一、生徒主事及び生徒主事補の辭職を要求す
- 一、學期試験の延期

一、今回のスイライキに犠牲者を出さざること等々。

校長は要求書を提出され、學生大會を認めぬといふ理由で答辯を與へないか、又は懇々と其の要求の承認し難い理由を説明するのであるが、元來過當の要求をするのであるから彼等に満足の得らるべき筈もなく、寧ろ彼等に於いては學校の要求拒絶を持ち構へてゐるのであるから、彼等は學校當局が學生大衆の切なる要求を一蹴したりとして盟休に入るのである。

近來の盟休は切崩しを恐れて、一致團結して寄宿舎又は講堂、教室等に立て籠るのが常である。校外に家を借り、或は汽車、電車で二時間以上を要する地方の友人の別荘或は民家等に籠城したこともある。そして寢具を運び炊出しをなし、警備統制文書、食糧等の各部を設け、分擔を定めて組織を固め、教官、父兄等との個人的接觸を回避する。或はその本部を移動式にし、卒業生其他左翼分子と極秘に連絡をとることもある。尙警備の任にあるものは盟休本部を守るのみならず、時としては校長宅を包圍監視することがある。文書係のものは所謂鬭争ニュースを發行して士氣を鼓舞、激勵して結束を固くし、又世間の同情を集めんが爲めに新聞を利用したり、彼等が盟休に至つた趣旨をビラに記して市民に撒布する。そして盟休數日に亘る場合は、生徒の倦怠を特に防がが爲め、校歌を合唱し、盟休の歌を作つて歌ひ、又種々慰安激勵の催をする。

以上の如く、學生生徒の不平不滿を取り上げて學校を紛擾化し、遂に之を盟休にまで持つて行け

ば、彼等に於いては一つの成功なのである。即ちこの紛擾闘争を通じて一般學生を階級的に教育し、闘争心を注入し、同志の發見獲得が出来る。彼等に於いては之を大衆運動の豫行演習なりと稱してゐるものさへあり、要求の通ると否とは初めから大なる問題としてゐない。又この盟休後、ストライキ批判會が開かれることがあるが、左翼學生、左翼運動者等は一度闘争を行つた後には、屢々「自己批判」を爲して成敗得失を検討し、機關紙等に發表して自他の参考にしてゐる。

四、中等學校に於ける左傾思想運動

中等學校に於ける左傾思想運動は大正十五年頃から始まつてゐる。大正十三年、學聯は中等學校にも社會科學研究會を作るべきや否やにつき協議し、中等學校へは積極的に働きかけず、自然的に社會科學研究會が出来た場合に、可及的に援助することを申し合せた。又當時の中等學校に於いては、未だ此の種の研究會發生の機運に立ち至つてゐなかつた。然るに其の後社會狀勢により、特に左翼運動、左翼文藝、その他の影響により、大正十五年以來、中等學校にも左傾思想事件が發生し、事件數も逐年増加の傾向にあつて、處罰者、檢束者も中等學校としては少なからぬ數に上つてゐる。殊に昭和七年に入つてからは、新學生テーゼに基く左翼組織の事件さへ發生するに至つてゐる。即ち、某中學校生徒間の日本共產青年同盟學校細胞組織計畫、某高等女學校生徒の自治學生會組織、某縣立中學校生徒の某共青地區學生對策委員會關係、又某地に於ける中學部自治委員會宣傳印刷

物撒布等の事件が發覺してゐる。その他讀書會、研究會等の事件は年々増加してゐて、その中には多數のメンバーを擁し、機關紙、ニュース等を發行してゐるものもあつた。更に反帝、モッブル、全協等の左翼團體と關係するものも生じて來てゐるが、殊に巧妙なる學校外の左翼運動家に指導される場合は恐るべき結果を來すものであつて、最近某縣の某中學校に於いては、反帝同盟の學校班が組織せられ、この組織を基礎として校友會の柔道、山嶽辯論、圖書、繪畫の各部、其他、自然科學研究會等にフラクシエン活動をなし、その赤化を企て、ゝゝた事實もある。又その運動方法も巧妙になり、某地の學生聯盟組織の如きは、數箇の中等學校の生徒が秘かに連絡をとり、事件を起してゐた。紛擾盟休の如き事件も屢々起される。大學、高等、専門學校に於けるが如く、左傾學生によつて計畫的に起されることは少ないが、寄宿舎に籠城したり、要求書を當局に突きつけたりする等、左翼戰術に倣ふ傾向のあるのは憂ふべきである。要するに中等學校生徒の左傾思想運動も、更に進めば、大學、高等、専門學校に於けるが如く、高度の組織を作り、巧妙なる戰術によつて活動する恐れがあり、十分の注意警戒を要するのである。

中等學校中、師範學校の生徒は、境遇、年齢等の關係から、他の中等學校生徒の場合よりも意識程度が高いやうに思はれる。又その事件數も比較的多く、讀書會、研究會等の組織の外に、教勞、全協、日本一般使用人組合、教育勞働部、及び新教新興教育同盟準備會の組織に参加する等、その運動に異色が見られる。將來國民教育を擔任せんとする是等師範學校生徒の左傾思想運動は、小學校教員の場

合と同様恠に寒心すべきものであつて、十分警戒せねばならぬのである。

五、小學校教員の左傾思想運動

小學校教員の左傾思想問題は昭和四年末、東京府下に於ける小學校教員聯盟と稱する秘密團體の發覺を最初とし、其の後年々増加してゐる。

小學校教員には學生生徒と同様、好奇心や學究的興味から左傾するものも少なくないが、教員自身的生活環境、兒童及びその父兄の生活の困苦に對する同情等から左傾するに至るものも多く、従つて、その左傾思想の深刻なものが少なくない。

今日の小學校教員の左傾思想運動の中心となり、之を指導し煽動するものに、新興教育同盟準備會(新教)と日本勞働組合全國協議會(全協)に屬する日本一般使用人組合中の教育勞働部(教勞)との二つの全國的組織がある。然も、この新教、教勞の支局設置等の事件は逐年増加の傾向にある。以下右兩組織の内容及び左傾小學校教員の活動について説明しよう。

新興教育同盟準備會(新教)

新興教育同盟準備會の前身は新興教育研究所といひ、前記東京府下の小學校教員聯盟事件に係し、處分せられた教員中の數名の者が組織した全日本教員組合組織準備會の發展したもので、昭和五年八月、合法的文化團體として創立された。その目的とするところは左翼的立場よりする教

育の研究、批判、今日の反動ブルジョア教育の克明なる批判並に實踐的排撃、プロレタリア教育(新興教育)の確立並に研究宣傳等であつて、雜誌「新興教育」を發行し、又時々講習會を催し、是等を通じて小學校教員、師範學校生徒等に働きかけ、種々なる策動を爲して來たのである。即ち昭和五年末の某師範學校の盟休事件の背後には、この研究所の同人が策動してゐた事實があり、其の他、この研究所の支局設置、新興教育讀書會設立等の事件が幾つかの府縣に起つてゐる。

然るに新興教育研究所は、昭和七年の初頃から其の活動方針につき所謂自己批判を試みた結果、「從來單に教員(教育勞働者)のみを對象として、之に對する階級的啓蒙といふことを任務として活動して來た」ことは誤りであるとし、勞働者農民の「子供の教育」の爲めにも、又研究所の主義理論を廣く大衆の間に浸透せしめ、研究所の擴大強化の爲めにも、活動の對象としては、勞働者農民に迄、之を擴めて行かねばならないとの理由から、同年八月末、新興教育同盟準備會に組織替し、各地の支部準備會の完成を待つて中央の同盟組織を完了することにしてゐる。其れが爲めに、同年六月から新に勞働者農民等、一般大衆に働きかける爲めの「教育新聞」を發行(但し、毎號發賣頒布禁止となり、同年九月廢刊せる模様)する外、勞働者農民に「子供の教育」上の不平不満や要求をぶちまけ合はせたり、讀み書き等の「初歩的」一般教育を授けたりする爲めの會合や、教員の階級的啓蒙の爲めの會合として、全國の工場農村、學校等に無産父兄會、補習教育會、復習會、その他教員間に各種の「教育サークル」なる組織を作らねばならぬとしてゐる。

この新教の結成當時に於ける任務及び行動綱領の主なるものを記せば次の通りである。

一、任 務

1. 労働者、農民、その他勤勞者の日常生活に於ける初步的一般教育に對する欲求の充足
2. ブルジョアジー、ファシスト、社會ファシストの初等教育理論との闘争
3. 初等教育機關のブルジョアの獨占との闘争
4. 無産兒童の完全なる教育的欲求の充足の爲めの一切の物質的條件の獲得のための闘争
5. ブルジョアジーの反動的初等教育との闘争
6. 植民地に於ける帝國主義教育との闘争
7. ソヴェート社會主義初等教育の擁護
8. プロレタリア初等教育運動のための労働者幹部の養成

二、行 動 綱 領

工場、農村、職場、學校に於ける軍國主義並に宗教的教育反對及びプロレタリア的初步的一般教育の活動

- 勤勞兒童に對する一切の懲罰反對
- 勤勞兒童のための社會主義原理に基く技術的職業的教育の充實
- 勤勞兒童の自主的組織活動の自由

學校に於けるプロレタリア的讀物、教科書使用の自由

勤勞兒童を犠牲にする上級學校入學準備教育反對

資本家全額負擔による工場、夜學、託兒所の設置とその工場委員會による管理

國庫負擔による農民學校、無料託兒所、圖書館、競技場の設置と農民委員會による管理

労働者、農民の初步的一般教育のための學校、社寺、公會堂、資本家地主の邸宅の無料解放とその

労働者農民による管理

プロレタリア少年運動の促進

青年團、青訓、青年學校に對する闘争

勤勞兒童の授業料撤廢、學用品、被服、食料、修學旅行費、運動用具等の無料支給

缺食兒童の完全なる給費

勤勞兒童に對する強制出費反對

小學校に於ける保健(入浴、理髮等)衛生並に醫療の完全なる施設

虚弱兒童、浮浪兒童、不具兒童、精神薄弱兒童等、特殊兒童のための教育機關の完備

無産父兄委員會運動の促進

反動的初等教育諸團體、市町村教育會、教員會、保護者會等の解體

學務委員會、社會教育委員會の廢止及び無産父兄會による小學校の監視

植民地に於ける帝國主義威嚇教育反對

植民地に於ける國庫全額負擔の義務教育實施

植民地小學校に於ける勞働夜學、農民夜學實施の自由

植民地に於ける民族語によるプロレタリア教育實施の自由

反動スポーツ團廢止、自主的スポーツ團の促進

過去の初等教育理論並に技術のマルクス・レーニン主義による批判的攝取

ソヴェート初等教育の系統的宣傳

プロレタリア初等教育運動の國際的提携

勞働者、農民の文化クラブ設置の促進

反動的教育雜誌及び其の他の出版物の撲滅

檢束、拘留、暴行、拷問、逮捕、監禁、家宅搜索、絶對反對

革命的宣傳、煽動の自由

階級的、政治犯人及び解放運動犠牲者の即時釋放と救援運動の自由

言論集會、出版、結社の自由

治安維持法、その他勞働者、農民運動を彈壓する一切の法律諸法令の撤廢

帝國主義戰爭絶對反對

ソヴェート同盟、中國ソヴェートの擁護

右の行動綱領中には多數の極左的ならざる項目が掲げられてゐるが、これは彼等の常套手段であつて、是等によつて、一般教員等を惹き付けんとするものであるから、十分に注意警戒をせねばならぬ。尙彼等にあつては、そのスローガンに於いても同様であるが、常に是等項目の最後に、最も重要な、或は究極の目的のものを掲げてゐるものであることを注意しておく必要がある。

全協日本一般使用人組合教育勞働部(教勞)

教勞は全協に屬する日本一般使用人組合(六部一班より成る)中の一部門である。その前身は全日本教員組合組織準備會の發展した日本教育勞働者組合で、前記新興教育研究所の創立よりやゝ遅れ、昭和五年十一月秘密裡に組織された。この日本教育勞働者組合は、昭和六年五月、非生産的勞働者としての一般使用人層の革命的統一戰線を樹立するために、舊日本一般使用人組合外二組合と共に全協の下に合同して日本一般使用人組合を組織し、その中の教育勞働部として活動することになつた。爾來、教員層を目標に、極左思想の宣傳、普及に努めた結果、各地に其の支部設置の運動起り、従つて又多數の檢束者、處分者を出すに至つてゐる。教勞は、その機關紙として昭和六年十二月以來「教育勞働者版」を發行し、秘密裡に所屬組合員に配付する外、「教勞パンフレット」を發行して闘争の指導をなしてゐる。

教勞の目的(便宜、日本教育勞働者組合がその結成當時に決定せる目的を借用する)及び行動綱領

(教勞部結成當時の草案を記せば、次の通りである。

一、目 的

1. 組織と闘争とによつて支配階級並に其の一切の代辯人に對して教育勞働者の生活維持改善を計り、プロレタリアートの勝利による一般被壓迫大衆の解放と共に實現さるべき教育勞働者の完全なる解放の爲めの闘争
2. 反動教育下のプロレタリア貧農兒童の物質的、精神的生活を守り、日常學校生活の改善を計ると共に、資本家地主教育の撲滅とプロレタリア教育の建設との爲めの闘争
3. 各産業勞働組合と緊密なる提携を結び、援助的地位に於いて、その闘争の發展と勝利との爲めに闘ふこと
4. 國內及び國際に於ける教育勞働者組合運動の戰線統一

二、行 動 綱 領

- 誠意強制休職、不意轉、強制轉任反對
- 俸給不拂、減俸、不當課税、強制寄附、初任給引下、昇給停止反對、賞與並に出張旅費、住宅料、當直料、僻
 陬地手当減廢反對、其の支給の増額、本俸への繰入
- 定期昇給期、昇給額の確定公示及び其の履行
- 繁忙期に對する手当の支給

資格別、性別、民族別の差別待遇撤廢、同一勞働に同一待遇

地方的差別待遇反對、出身校、出身地方に依る一切の關的活動の打破

他府縣への轉任による待遇の惡化反對

反動的諸事業、諸施設への寄附強制反對

御用教育諸團體へ強制加入反對、會費積立金の強制徵收反對、積立金の利子付返還

雜務、休暇休日の強制出校、放課後、強制居残り反對

被服費の支給

賞與削減、昇給延期を伴はざる女教員の生理休暇五日制、及び産前産後の十二週間の休暇

居住地、旅行、服裝の自由

戀愛結婚、娛樂、讀書研究の自由、親書の開封、秘密侵害反對

國庫府縣、市町村支出による教員並に家族の傷病治療

國庫府縣、市町村支出による教員住宅の完備

教員の保健衛生、娛樂、教養のための施設の完備

退職手当の増額と其の確實なる支給

年功加俸の年限の縮小並に其の増額

國庫、府縣費による死亡せる教員の遺族の生活の完全なる保證、教員遺族扶助料の増額、失業教

員、誠首、勞働強化を伴ふ學級整理、學校廢合反對

入營出征中の俸給金額支給

入營出征による誠首、休職反對、除隊歸還以後の即時復職

入營出征による准教員、代用教員の誠首反對、除隊歸還後の即時復職

入營出征による缺員の即時補充

徴兵検査及び簡閱點呼の際の旅費支給

兵士の過重なる勤務、酷使、懲罰反對

通信、外出、外泊、集會、讀書、研究の自由

兵士委員會の組織

軍國主義、愛國主義教育反對

社會科學研究の自由

國庫、府縣金額負擔の師範學生に對する一切の學費支給、補助費の減額反對並に其の増額

軍事教練、宗教、教育反對

卒業後の義務年限廢止

寄宿舎内の完全なる自治制の確立の爲めの闘争

卒業後の完全なる保證、強制休職反對、休職期間中の俸給金額支給

一部生、二部生の差別待遇、對立反對
一切の懲罰制反對

進歩的生徒の追放反對、進歩的師範教育の擁護
學級會に對する闘争

自主的生徒委員會の確立及びその爲めの闘争

國定教科書反對、教員父兄の會議による教材目、教科書の選擇

植民地に於ける授業料の撤廢

民族的差別撤廢、民族語使用の自由

植民地に於ける帝國主義教育反對

上級學校への入學受験準備教育反對

入學試験制度の廢止

反動的職業指導に對する闘争

國庫金額負擔による義務教育年限の延長

無産兒童に對する中等學校の解放

授業料の廢止、國庫、府縣、市町村の負擔による兒童教科書、學用品、食事、雨具、履物、衣服、遠足、修學旅
行費等の支給、兒童に對する強制寄附反對

學務委員會、社會教育委員會に對する闘争

自主的職場委員會確立の爲めの闘争

教員會、互助會自主化の爲めの闘争、自主的教員會確立の爲めの闘争

自主的教員大會、學校代表者會議開催の爲めの闘争

御用教育諸團體に對する闘争

職業會議に於ける議案提出、討論の自由、大衆討論に依る決定

資本主義的教育理論と政策の批判研究並に之に對する闘争

プロレタリア教育理論の確立と發展の爲めの闘争

ソヴェート同盟に於ける教育の系統的宣傳

國庫並に府縣市町村負擔による虚弱兒童、不具兒童の保護教育施設の完備

國庫並に府縣市町村負擔による兒童の保護衛生設備の完備

(衛生的な便所、湯呑所、入浴場、避暑、防寒の設備等)

兒童の學習、體育、娛樂の爲めの諸施設完備

兒童に對する一切の懲罰、體罰反對

特殊部落兒童、朝鮮、臺灣兒童の差別待遇反對

無産兒童に對する出席強要反對

級長制度の廢止

自主的學校、學級自治會、部落制自治會、子供會の確立、ピオニールの組織及び活動の自由

兒童に對する授賞、成績公示、席次操行決定反對

フッシスト、社會フッシスト並に宗教的、少年組織に對する闘争

男女共學

勞働者、勤勞農民、失業者、其の他一般勤勞大衆の兒童の授業料撤廢

國庫並に府縣市町村全額負擔による學齡前兒童の擁護、教育施設の完備

兒童のストライキ權の獲得

國庫、府縣市町村全額負擔による技術學校、農民學校の設立並に青少年集會所、圖書館、運動競技

場、其の他文化並に娛樂機關設置の爲めの闘争

公民補習學校、青年訓練所に於ける勤勞青年の教育時間に對する賃銀の支給又は勞働時間へ

加算の爲めの闘争

フッシスト的男女青年團、在郷軍人會、消防隊、反動スポーツ團に對する闘争

農民委員會運動に對する積極的援助

勞働者クラブ、農民クラブの失業者の家、設置の爲めの援助

借金の支拂猶豫、棒引、電燈料、瓦斯料金、水道料金、家賃値下げの爲めの闘争

失業教員の復職、其の他

教員労働者組合の組織並に活動の自由

教育労働者のストライキ権獲得

總ての男女教員の選挙、被選挙権の獲得

小学校令、其の他一切の關係法規の改廢

教育労働者の利権擁護の爲めの闘争に對する一切の抑壓反對、彈壓諸法令の撤廢

労働者農民組合との提携

コップ並にコップ加盟各文化團體特に新興教育同盟との提携

國內教育労働者運動の統一

ソヴェート同盟の系統的宣傳

帝國主義戦争反對

解放運動犠牲者及び其の家族の救護

國際教育労働者組合運動の統一

エドキンテルンへの加盟

右の行動綱領に於いては、新教に於けると同様、左翼的ならざる項目も可なり多數掲げられてゐるが、新教に於いて注意したるが如く、それ等の各項目の穩和性に隔着せられざるやう十分なる注

意監督を必要とするのである。

新教教勢關係の事件數及び運動方法 今日迄に起つた小學校教員の左傾思想事件中(一)新教及び教勞の兩組織が同時に發覺したものの凡そ八件、(二)新教の組織が單獨に發覺したものの凡そ八件、(三)教勞の組織が單獨に發覺したものの凡そ六件、他に全協教勞部と無關係に存在する地方的の教育労働者組合關係のもの凡そ五件である。(昭和八年三月末調)。然も是等事件の發生を各組織について見るに、最近の傾向としては(一)及び(二)が増加し、(三)は漸減の形となつてゐる。蓋し、新教は表面、合法的文化團體を標榜し、小學校教員並に労働者農民の啓蒙運動を目的としてゐるのに對して、教勞は専ら秘密組合運動團體として、全國の小學校教員等を政治的、經濟的闘争に動員することを目的として活動するものであるから、左翼運動に對する知識の缺如してゐる小學校教員の多くは、教勞のメンバーに獲得せられ易く、従つて又新教の支部が初めに多く組織せられるのである。而して教勞と新教とは指導、被指導の關係にあつて新教の支部が組織せられ、相當左翼意識の進んだものが出來ると、教勞のオルグ(オルガナイザー、組織者)によつて教勞の支部が組織せられ、新教のメンバー中意識の高いものは同時に教勞のメンバーとして引上げられるのである。

小學校教員の左傾思想運動の實際は、勿論其の組織の擴大強化にあるが、それは同志の獲得といふことに外ならぬ。それは集團的には新教の提唱してゐる教育サークルによる場合が多く、又教勞に於いても、此の種のサークルを作つて同志の獲得、左翼意識の注入を勤めてゐるのであつて、教

員間に新に哲學、經濟、文學、歴史、スポーツ、その他の研究會を作つたり、或は既設の各種教材の研究會、懇談會、同級會、其の他趣味、娯樂の會等にフラクションを潜入せしめて、之をその影響下におかんとするのである。又個別的には組合員があらゆる機會を覘つて同志の發見、獲得に努めるのであつて例へば、同僚については宿所、通勤の途中、職員室、運動場等で雜談する場合、時事問題等に對し、各人の思想傾向、階級意識等について觀察しおき、大體の目星がついたら、雜誌、新興教育を與へて讀ませるとか、或は又各人の不平、不滿の最もよき相談相手となるとか、種々の方法を案出して左翼へ誘導し、そして組織への吸収を謀つてゐる。

斯くの如くして同志の獲得が行はれ、従つて又新教、教勞の支部が組織されるのであるが、是等の組織が出来る時、黨、同盟の手も延び易くなつて來るものであつて、最近發覺した某縣の事件に於いては、現職の小學校教員にして黨員及び同盟員となれるものさへあつた。

小學校教員の左傾思想運動の實際としての今一つは、兒童への働きかけである。是は新教、教勞共にその目的としてをる所で、之が爲めには、ピオニールのオサラヒ帳「プロレタリア小學讀本」といふが如きものを作り、それに基いて、兒童に左翼的教育及び訓練を施すのであつて、國民教育上眞に寒心すべき事實である。その働きかけの方法にも種々あるが、一例を示せば次の如きものがある。

1. 國定教科書の各課各項目について左翼的歪曲を加へ、之を兒童へ教へ込むのである。その惡

用され易い學科目は修身、歴史、國語等である。又教授方法に於いて左翼意識を注入しようとする場合もある。數學、圖畫、綴方、體操の如き科目すら後の意味に於て利用されることがある。

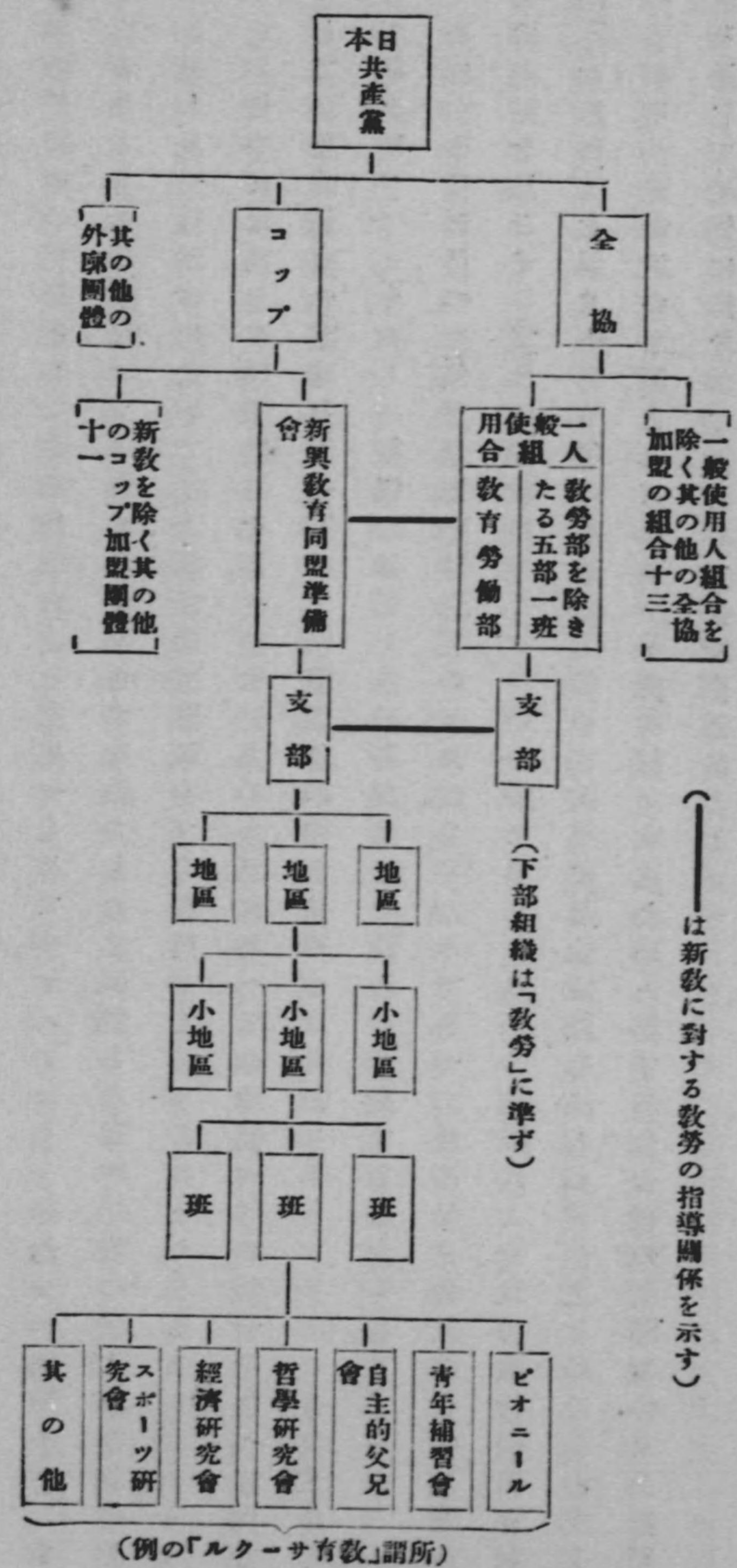
2. 擔任組中の兒童をして所謂自治會之を發展せしめてピオニール——赤色少年團等——にすることもある。或はクラス會、オ話しノ會等を作らしめ、之に對し左翼的意識の注入及び訓練を施し、且つ自治會に於いては左翼的な機關紙をすら發行せしめてゐたところもある。

その他、中には巧みに時事問題を捉へ、或は兒童の生活に訴へ、又は學藝會等の機會を捉へて兒童をして左翼的筋書の芝居を演ぜしめて左翼思想の種を植ゑつけた例もあり、オサラヒ會、復習會等の名稱を用ひてピオニール類似の團體を設け、左翼意識の注入に活動する場合もある。

更に小學校教員の左傾思想運動は兒童の父兄にも及ぶのであつて、無産父兄會及び青年補習會等の名稱を用ひ、その實は所謂教育サークルの一種であるが、斯かる組織により、教勞發行の「教育新聞」(今は廢刊)等を讀ましめる等の活動から始めて、次第に階級意識を注入し、且つ之を昂めんとするのである。又最近の事例としては、某小學校教員が「家庭新聞」と稱する此の種の新聞を作り、受持兒童を通じて家庭に働きかけんとしてゐた事實がある。

新教及び教勞の定型的組織圖を示せば次の如くである。勿論之は理想型態であつて、斯かる完備した形式の組織が實際に作られることは稀である。

〔新教及び教勞の定型的組織圖〕



圖中支部は府縣を單位とし、メンバー多數の場合は郡別に地區が作られ、更に地區の下に二三の市町村單位に小地區が作られる。小地區の下に學校別の班があり、班は通常研究、趣味、娛樂等の會名が用ひられる。班關係者が一般無色の人をも左翼的影響下に置く爲めに、種々の會を作る。所謂教育サークルであり、フラクシオン活動の基本的地盤である。

教勞支部は本部關係者が直接間接に左傾教員を發見して、之を作らしむるものである。そして、多くの場合、之が爲めに、既設の新教の支部或は全協加盟團體の支部が利用される。又新教に於ては、コップ加盟團體の地方支部が利用される。

六、青少年に於ける左傾思想運動

青少年に於ても大正十五年以來勞働爭議、小作爭議等に關聯し、又極左主義者、極左團體等の煽動に因つて種々なる事件の發生を見るに至り、其の事件數も年々増加の傾向にあると認められるのである。即ち青年團、青年訓練所に於いては、無産青年團、勞農青年團、全國農民組合、青年部等の名稱の下に、既存青年團の自主化、階級的青年團の設置等を目標として、所謂官製青年團に對抗する目的を以て組織せられるものがある。又稀には實業補習學校、青年訓練所の左翼化、同盟休校等を企圖するものがある。而して是等は附近の左翼勞働組合の影響、團員の友人、其の地方出身者中の左傾學生等の影響によるものが多い。

又少年團に於いても極左主義者、極左團體等の策動により無産小學校又は農民小學校等が組織せられ、労働者、小作人等の児童をして同盟して缺席乃至休校せしめ、校外に於いて小學校類似の特殊教育を施し、ピラ、ポスター、其の他の左翼雑誌等を利用して過激なる階級思想を鼓吹する等の事がある。又労働争議、小作争議に關聯してピオニール赤色少年團、勞農少年團等の名稱もあり、とする特殊の少年團を組織し、極左思想の鼓吹をなし、種々の會合、示威運動を試みる等の事が少くない。殊に近時、教勞、新教等の煽動により、小學校現職教員並に思想的理由により免退職を命ぜられたものが受持児童、若くは在職當時の児童を通じてピオニールを組織した事例が少くない。又新教では「ピオニールの友」「ピオニール讀本」等を發行して児童に使用せしめることにしてゐる。而して以上の組織は概ね一時的のものが多く、その運動が一般小學校児童に及ぼす影響は看過すべからざるものがあり、その活動については特に注意を要するものと認められるのである。

七、左傾の原因

左傾の原因は多種多様であつて、之を簡単に述べることは甚だ困難である。

學生生徒の左傾の原因に關しては、昭和六年七月本省に設置せられた學生思想問題調査委員會が約十箇月に亘る研究の結果、その總會に於て決定し、文部大臣に答申した「學生生徒左傾の原因」が参考となる點極めて多いから、「學生生徒左傾の對策」と共に、その答申の全部を次に掲げる。

學生生徒左傾の原因

(一) 社會の情勢

- 一、資本家と労働者との生活の甚しき懸隔及び農村の著しき疲弊
- 二、労働問題及び小作問題の激化
- 三、中産階級の經濟的顛落
- 四、卒業後に於ける就職の不安
- 五、政界の腐敗
- 六、政治並びに政黨に對する不満
- 七、民衆の立憲自治の意識の不足
- 八、物質偏重的傾向
- 九、多數結束して目的を達成せんとする傾向
- 一〇、共產主義及び其の運動の真相に關する認識不足

左傾學生生徒の社會問題に對する關心の原因は、主として現時の世界の經濟的、政治的情勢並びに我が國經濟界及び政界の情勢に不満を感じ、疑問をもつに始る。

經濟界の諸問題、政界に於ける演職、選挙に於ける不正行爲の事實が、或は新聞雑誌に報道論議せらるゝを見、或は直接自己の生活體驗に訴へてこれに對する疑惑を懷き、漸次社會問題に興味

を有するに至る、而してこれ等の問題を解決するためには、政治の力未だ十分に現れず、勞資の協調未だ豫期の効果に達せず、貧富の懸隔いよ／＼甚だしきを見て、彼等は遂に社會の現状を根本的に變革せんとする左傾思想に轉移するに至る。更に又國民の立憲自治の意識の不徹底、社會の物質偏重的風潮は、左傾思想の乗すべき間隙を生じ、社會の附和雷同的傾向と責任觀念の弛緩と共產主義及び其の運動の真相に關する認識の不足とは、青年をして左傾的行動に赴かしむる素地をなすものなり。

(二) 思想界學界の傾向

- 一、プロレタリア文藝並びにマルキシズム理論の流行
- 二、新聞雜誌記事の左傾的論調
- 三、外國思想の模倣
- 四、自然科学的見地の誤用
- 五、國體に關する理論的研究の不振
- 六、我が國固有文化の研究の不振
- 七、マルキシズムの批判的研究の不振

青年の左傾するに至るは、現代我が國の思想界學界の風潮に誘導せらるゝもの少からず。

所謂プロレタリア文藝及びマルキシズム理論の流行は、自ら感激し易き青年を偏頗なる見解

と同情心とに導き、これをして冷靜なる思慮を失はしめ、新聞雜誌の左傾的論調は、青年をして社會の現状に疑義を挟ましむ。又外國思想の盲目的模倣に専らにして、自然科学的見地に偏倚し、我が國特有の文化の研究不振を極め、而して國體觀念に對する明確なる認識の不足の結果は、マルキシズムに對する批判的研究の不振と相俟つて、青年をして左傾思想に對する正當なる判断力批判力を失はしむるに至る。

(三) 教育の缺陷

- 一、國體觀念に關する教育の不徹底
- 二、修身歴史地理國語漢文等諸學科教授の不徹底
- 三、人生觀社會觀に關する教育の不十分
- 四、創造力及び批判力の涵養に關する教育の不十分
- 五、情操意志の陶冶の不十分
- 六、教師の教育者としての自覺並びに識見及び修養の不十分
- 七、教師と學生生徒との個人的接觸の機會及び設備の不足
- 八、學生生徒の定員數の過大なるによる訓育の不徹底
- 九、教育制度の社會の必要に對する不適合
- 一〇、家庭及び學校に於ける教育觀の功利的傾向

一、家庭に於ける宗教及び道德の形式化

現在の學校教育は、創造力、批判力の涵養不十分にして、又人生觀社會觀に對する自覺信念を養成する方面殆どなく、特に我が國の深遠なる國體に對する明確なる觀念を養成するに缺くる所あり。かゝる教育の結果は、學生生徒をして現下の社會問題、思想問題に關する正當なる推理力、判斷力を育成せしむること能はず。又人格の養成殊に我が國民としての性格の涵養足らざる所あり。又現在の教育制度は、社會の實際に適應せず、且學生生徒の定員數過大なるため個性に應ずる訓育十分に行はれず。凡そこれ等の事情は、學生生徒をしてマルキシズムに赴かしむる有力なる原因となるものなり。而して教師の教育者としての自覺並びに識見修養の不足も、かゝる結果を生ぜしむるに重大なる關係あり。又家庭及び學校に於ける教育觀が功利に走り、宗教的情操及び道德的觀念を養ふに不十分なることも亦其の責なしとせず。

(四) マルキシズムの性質

- 一、理論的體系に整備の觀あること
- 二、現代社會の缺陷を批判せること
- 三、社會改造の目標を示せること
- 四、新興の學說と考へられること
- 五、觀念的に非ずして實踐的なること

マルキシズムは其理論體系に於て一見極めて整然たる觀を呈する故に、合理を要求する青年の心理に最もよく適合す。且其の説たるや社會の缺陷を批判し、しかもこれが改造の目標を示せる點はよく青年の心情を惹くに足る。彼等は冷靜にこれを批判することなく、其の學說の新奇なるに迷ひ、且實踐的なるに惹かれて遂にこれを信奉するに至るなり。

(五) 左傾運動

- 一、左傾團體の宣傳煽動
- 二、左傾分子の誘惑
- 三、左傾文獻の研究
- 四、學内言論出版物の左傾化
- 五、學内左傾事件

學生生徒をして左傾運動に加入せしむる直接の原因は、學内及び學外に於ける左傾運動の誘惑なり。即ち學外にありては、共產黨、共產青年同盟及びその外廓團體又はプロレタリア文化團體等、學内にありては、それ等の學内班並びに讀書會、自治學生會等の巧妙なる組織と執拗なる宣傳煽動なり。而して友人先輩等に左傾分子ある時は、其の誘惑最も強し。又マルキシズム理論、プロレタリア文藝等に關する文獻の過激なる言辭は、青年を驅つて實際運動に赴かしむること少からず。又學内より發行さるゝ出版物及び學内に開催さるゝ辯論會、討論會等の左傾的傾向

に刺戟され、或は又學内に於ける盟休紛擾事件等の左傾的事件に動かされて左傾運動に加るものあり。

(六) 青年の心理

- 一、感激性 單純性
- 二、輕信性 雷同性
- 三、正義感 同情心
- 四、知識欲 合理性
- 五、反抗性 鬭争性
- 六、極端性 無謀性
- 七、好奇心 模倣性
- 八、功名心 虛榮心
- 九、支配欲 優越性

青年は概ね經驗未だ狹隘にして、且冷靜に思慮を廻らす餘裕なく、又正義感同情心強く、知識欲と合理性とに富む。随つて社會の情勢に動かされて輕々しく新思想を信じ、忽ちこれに感激して褊狹なる思想を固執し、反抗と鬭争とを敢へてし、遂には極端にして無謀なる行動に出づるに至る。

又或は好奇心に驅られ、新奇なる言動を模倣し、功名心虚榮心を満たさんとし、或は支配し、優越せんとする傾向より左傾するものなり。

(七) 境遇及び素質

- 一、家庭の貧困不和、家庭に於ける不遇、富裕にして不節制なる家庭生活等
- 二、強情執拗、粗放褊狹、直情徑行、熱情義俠等
- 三、生理的虚弱、病氣不具等

左傾せる學生生徒の中には、中産階級の子弟にして順境に育ち、且素質も悪しからず、身體も強健なるもの少からず。然れども小數のものに就いては、家庭の貧困不和等の如き特殊の環境及び強情執拗等の性質、身體の不健全が誘因となりて左傾する場合あり

學生生徒左傾の對策

學生生徒左傾の原因は、別紙調書に記載せる如く、一、「社會の情勢」二、「思想界學界の傾向」三、「教育の缺陷」四、「マルキシズムの性質」五、「左傾運動」六、「青年の心理」七、「境遇及び素質」等の諸方面に存するが故に、其の對策も亦これ等の全般に亘つて攻究せざるべからず。而して教育は人心を啓發し、思想を指導するものなるを以て、廣く上述の原因の各項に關係するものと謂ふべし。此の點より見て、これに關する對策を講ずること最も緊要なりとす。然りと雖も、思想問題は獨り教育の

みに依りてこれを解決し得るものにあらず、同時に政治行政並びに社會改善等の方面に於ても、それ／＼其の原因に對應して適切有效なる方策を講ずるの必要あるを認む。

學生生徒左傾の原因中、六、「青年の心理」七、「境遇及び素質」に就いては、家庭教育學校教育及び社會教育に於て十分なる注意を拂ひ、適切なる措置をなすと共に、其の個性並びに個人的境遇に留意して適當なる教導をなさざるべからず。又四、「マルキシズムの性質」に關する對策は、思想界學界に關する對策の條下に於て自ら併せ考慮せらるべきものとす。隨つて以下に於て、一、「社會の情勢」二、「思想界學界の傾向」三、「教育の缺陷」五、「左傾運動」に關して其の對策を敘述すべし。

(一) 社會情勢の改善

社會狀勢の改善は、政治經濟の制度組織及び其の運用の改善並びに國民精神の作興に依らざるべからず。而して其の根本は、社會の指導的地位にあるものの反省と自覺とに俟つもの多し。就中爲政者資本家等が常に國家公共の立場に立つて行動し、眞に國家の公務に當り、社會の儀表たるの責任を盡くさざるべからず。一般國民も亦時弊に鑑み、立憲自治の民たるの自覺を持ち、特に現下の物質偏重並びに多數の力を持つ威迫的傾向を矯め、中正穩健なる精神を振作せざるべからず。これを要するに、國民たる自覺に基づける健全なる精神を振興せしめ、以て各種の弊害を匡正することを必要とす。

前述の趣旨に依り、實行を必要とする事項を擧ぐれば左の如し。

- 一、黨争の弊害を除去し、選挙の淨化を圖り、議會の機能を振作して議會制度に對する國民の信望を高むること。
- 二、公務に對する嚴肅なる義務觀念を振起し、政界の綱紀を肅正し、政治行政の公正を期すること。
- 三、我が國情に適する社會政策を充實して、無産者及び小産者の生活不安を除き、其の他適當なる産業政策に依りて國民生活の向上を期すること。
- 四、時代の推移に對して富豪及び有産者の自覺を促すと共に、財力に應じて國民の經濟上の負擔の公正を期すること。
- 五、學校卒業者を適當なる職業に就かしむるため、組織的機關を特設すること。
- 六、立憲自治の精神と其の實行力とを涵養せしむるため、適當なる機會を利用して政治的訓練の普及徹底を圖ること。
- 七、政治教育若しくは政治的訓練を目的とする指導機關を新設又は助成すること。
- 八、多教結束して不當なる目的を達成せんとする行動に對して、其の處置を嚴正にすること。
- 九、講演印刷物等に依り、共產主義運動の目的方法の不正不法なる實狀を世人に認知せしめてこれを豫防警戒せしむること。

(二) 思想界學界の匡正

現時思想界學界の傾向は、外國文化の模倣を事とし、徒に新奇を尊び、我が國固有の精神文化を忘るゝの嫌あり。又自然科学的見地誤用せられて、理想主義的見地は殆ど等閑視せられ、物質偏重の風潮益々助成せらるゝ傾あり。其の結果として、思想學問の動搖不振を來し、ために左傾思想の横行を見るに至れり。されば今日の學界思想界に於て最も緊切なるは、我國の獨自性を自覺し、國體觀念を理論的に闡明し、固有文化の研究を盛にし、理想主義を高調するにあり。而してこれに依りて我が國独自の思想文化の發揚に努め、國民生活の指導原理の確立を圖ると共に、外來思想、就中マルキシズムの批判を徹底せしめ、更に其の結果を廣く一般國民に普及せしめざるべからず。又健全なる學藝の研究を奨励し、新聞雜誌等の論調記事を適正ならしむること肝要なり。

前述の趣旨に依り、實行を必要とする事項を擧ぐれば左の如し。

- 一、我が國體國民精神の原理を闡明し、國民文化を發揚し、外來思想を批判し、マルキシズムに對抗するに足る理論體系の建設を目的とする、有力なる研究機關を設くること。
- 二、時勢に適應せる精神文化の研究に對して奨励金を與へ、又思想の指導上有益なる文獻の出版を奨励すること。
- 三、宗教的情操の涵養を奨励し、人格の陶冶と國民精神の培養とに資すること。
- 四、小説音楽演劇映畫ラヂオ等に依り、健全なる人生觀社會觀の普及に努むること。

- 五、新聞雜誌が、適實なる報道、公正なる批判に依りて中正穩健なる輿論の作興に資するやう留意を促すこと。

(三) 教育の改善

今日の學校教育は知識を偏重し、形式的注入に流れ、教育の効果を擧ぐるに於て遺憾多し。現下最も緊要とする所は、教育に關する誤れる見解を匡正し、克く教育の本質を把握し、其の眞意義を發揮するにあり。これがためには教育の中心を全人格の完成に置き、知識の偏重を排し、情操、意志の陶冶を重んじ、國體觀念と相聯關せる人生觀社會觀を基として創造力、批判力を養ひ、實踐を重んじ、功利的觀念の偏重を斥けざるべからず。而してかゝる教育を施すには、教師は常に生徒に親接し、身を以てこれを啓導し、個性に應じてこれを薰化すること肝要なり。上述の目的を達成するためには、學校の制度、組織施設を改善すると共に、教育の内容並びに其の方法を改良し、更に進んで教師に人材を招致するの方策を講ぜざるべからず。

尙家庭教育にありては、克く我が國固有の家族制度の美風を發揮し、人格的薰陶の徹底を期すること緊要なり。

前述の趣旨に依り、實行を必要とする事項を擧ぐれば左の如し。

- 一、學校教育に於ける教授、訓育の内容方法及び制度、組織施設等の改善を目的とする、有力なる調査機關を設くること。

- 二、學校に於ける諸學科の教授内容と學生の思想傾向との關係を具體的に調査し其の結果を有効に實施すること。
 - 三、一學校及び一學級の定員數を減少して、個別的啓導の實を擧ぐることに。
 - 四、諸學科を通じ、國家社會の實相に關する正確なる知識を與へ、學生生徒をして、これ等に關して皮相なる公式的見解を懐かしむるの弊を改むること。
 - 五、學校及び職業選擇の指導をなし、學生生徒をして、其の資質及び境遇に應じて適切なる進路を取らしむること。
 - 六、教師の養成並びに檢定の方法を改善し教師の識見と教養とを高むること。
 - 七、教育界に人材を擧げ、其の待遇の改善を圖ること。
 - 八、教師の社會問題思想問題等に關する知識を高め、これに對する批判力、指導力を養はしむるため講習會を開き、又は其他適當なる施設をなすこと。
 - 九、家庭に於ける躉を重んじ、且學校教育にのみ依頼するの弊を除くと共に、家庭と學校との連絡を一層密接ならしむること。
 - 十、虚榮的功利的動機より子弟を漫りに高等教育機關に入學せしむる弊風を改むること。
- (四) 左傾運動の防止

學生生徒にして左傾運動に關與するが如きは、其の本分に違ひ、社會及び學校の秩序を紊すの

みならず、他の善良なる學生生徒をして前途を誤らしむる機縁となるが故に、學内と學外とを問はずこれを嚴重に取締ると共に、一面に於ては、教育の機關たる學校の本旨に照らして、指導訓育に就いても十分なる努力をなさざるべからず。又一般の學生生徒に對して、左傾運動の眞相を知らしめてこれを警戒せしむるのみならず、誤れる自由の觀念を破り、自重自律の精神、旺盛なる責任觀念を養はしむること極めて緊要なり。而して學生生徒の左傾運動は、一般左傾運動と密接なる關係を有するを以て、其防止の實を擧げんがためには、一般左傾運動防止の方策を周密にせざるべからず。

前述の趣旨に依り、實行を必要とする事項を擧ぐれば左の如し。

- 一、共產黨共產青年同盟及び其の外廓團體、プロレタリア文化團體等の運動を嚴重に取締ること。
- 二、學内及び學外に於ける學生生徒の左傾運動に就いては、學校家庭内務及び司法機關相連絡して其の取締を周密にすること。
- 三、學生生徒に左傾運動の不正不法なる實狀並びに其の取締處分の結果等を知らしめて、豫防的效果を擧ぐるに努むること。
- 四、總べての教師をして左傾運動の防止に一層の努力をなさしむること。
- 五、處分を受けたる學生生徒を啓導して改悛せしむるために、適當なる施設をなすこと。

- 六、左傾的理論及び文藝の宣傳に對して、健全なる思想を普及する方法を講ずること。
- 七、健全なる自覺的青年運動並びに修養團體の活動を指導獎勵すること。
- 八、學校と家庭との連絡を密接にして、學生生徒左傾の防止並びに匡正を一層有效ならしむること。
- 九、學友會其の他の附帶施設の本旨を發揮するに努め、其の左傾運動に利用さるゝことを防遏すること。

大學、高等、専門學校學生生徒左傾の原因 左傾の原因の一つとして、以前は境遇上、健康上又は性格上に何等かの缺陷あるものが思想的にも中正を失ひ、左傾するやうに思はれたのであるが事實は必ずしも其の通りではないのである。即ち本省に於いて左傾學生につき調査した所によれば、普通の生活を爲すもの、實父母あるもの、及び健康者が大多數であり、性格に於いても温良重厚なるものが最多數であつた。又學校成績に於いても優良、可の中良、可のものが大多數であつた。

次に左傾の原因経路として、之を大學、高等、専門學校に於ける左傾學生生徒の手記、告白等につき調査した結果は次の通りである。(各項配列の順序は表はれたる數の順による)

一、左傾の伏因ともいふべきもの(素因)

文藝的興味

家庭の貧困

人道主義的傾向

社會問題に對する素朴なる關心

左傾思想に對する好奇心

學究的興味

家庭に於ける精神的不遇

虛無主義又は懷疑主義的傾向

その他

二、左傾の直接原因ともいふべきもの

左傾文献の影響

プロレタリア文藝の影響

左傾友人學生の影響

社會の經濟的矛盾に對する疑惑

一般社會状態に對する疑惑

教師の左傾的言動の影響

左傾討論の影響

學内左傾的事件の影響

その他

三、左傾の誘因ともいふべきもの(動機)

勧誘

學内左傾思想團體の刺戟

左傾的事件の刺戟

學外左傾團體の刺戟

左傾文献の刺戟

左傾討論の刺戟

その他

右の内、最も有力なものは、左傾文献、プロレタリア文藝の影響であり、之と相並んで有力なのは友人の影響、勧誘である。即ち、初めの間は讀書、其の他前掲の如き原因から心が動いて自發的に左傾文献を購讀借讀するのであつて、友人の誘惑は割合に少ないのであるが、一度左傾的文献を讀み、又はマルクス主義の研究を志すに至れば、假令それが個人的の讀書研究であつても、聽て左傾的友人に察知せられ、その誘惑するところとなつて、讀書會その他の左翼組織に關係するやうになるのである。

ある。

中等學校生徒左傾の原因 中等學校生徒に在つては、大學、高等、專門學校の學生生徒よりも、其の左翼的意識の程度は一般に低く、且つ其の左傾の原因動機も、今日迄の調査では左傾せる近親、卒業生、友人等の勧誘が多いのである。これは、中等學校生徒の大部分が未だ思慮淺く、單純で、好奇心に富む爲め、外部から乘ぜられる機会が多いからと思はれる。其の他、左翼運動、特に上級學校の學生生徒の左傾思想運動の刺戟、プロレタリア文學、プロレタリア藝術等に對する興味、左翼出版物の閱讀等も有力な原因動機と見ることが出来る。

小學校教員左傾の原因 小學校教員の場合に於いては、學生生徒の場合に於ける原因動機の外に、新教、教勞等の組織及び其の宣傳、擴大運動の爲めに引き入れられること、極左運動、特に教育方面に對する極左運動に關し、殆ど其の知識無く、従つて警戒の十分でないこと、社會問題、思想問題に關する公正穩健なる知識の不十分なること、及び、確固たる志操、特に教育者としての堅固なる信念に乏しきこと等を多くの左傾教員間に共通してゐる原因と見做すことが出来る。更に小學校教員に在つては、その特殊の生活環境等に基き種々なる原因動機がある。即ち、缺食兒童の増加、兒童の父兄の失職及び生活難に對する同情、教員の待遇、不意轉等に關する不平、不滿、校長、其の他上司に對する反感、同僚間の葛藤等が原因動機となつて左傾する場合も少くないのである。

女子學生生徒左傾の原因 最後に女子學生生徒の場合に在つては、左翼文献の影響は第二次的

のものであつて、寧ろ左傾せる近親又は男子友人の影響が比較的多数を占めてゐる。又社會の情勢に對する不満、疑惑、社會及び學内の左傾的風潮の影響等は男子學生生徒の場合に比して著しく少なく、プロレタリア文藝の影響は男子と同様に比較的多数を占めてゐる。要するに、女子の多くは左傾せる男子友人の影響によつて先づ初めに感情的に動かされ、漸次文献等の影響によつて深入りしてゆくものである。又從來女性の不徳とされてゐる虚榮心強きもの、輕薄なもの、淫奔なもの、陰險なもの、傲慢なもの、男性的に過ぐるもの等が多く左傾してゐる。

八、結 語

近時左傾思想運動は益々知識階級の間蔓延するの傾向を示し、大學、高等、専門學校等の學生生徒、卒業生、中途退學者、其の他知識階級に屬するものが多數關係し、黨、同盟及び其の外廓團體の有力な地位を占めるに至つてゐるものも少なくない。又社會上相當重要な地位にある人物及び良家の子弟にして、シンパサイザーとなり、この運動を援助せる者も少なからぬ數に上つてゐる。更に國民教育の重任を擔つてゐる小學校、教員の間にも、この種の運動が最近引續き起り、殊に甚しきは、小學校兒童に働きかけてゐる事實のあつたことは既に述べた通りであつて、我が國將來の爲めに眞に憂慮すべきことである。従つてこの運動に對し、その防止根絶を圖ることは、我が國今日の最も喫緊なる要務である。是が爲めに執るべき方策は種々あるであらうが、先づ第一に、學生生徒のみ

ならず、廣く一般世人に對して、左翼的宣傳煽動に關し、其の内容方法等に關する必要な知識を與へて十分注意警戒せしむると共に、我が國建國の大精神を明かにし、我が國體の本義を知らしめ、我が國文化の特色を闡明し、以て中正健全なる道を自覺體得せしめることが必要である。左傾思想運動の絶滅、國民思想の正導は極めて重要なることであるが、これは獨り當局者のみならず、凡ゆる人々が、夫々の方面から協力して、銳意之に當らねば十分の效果は期せられぬのである。

附録の一

主要極左記念日一覽表

(*印は特に注意を要する記念日なり)

月 日	名 稱	備 考
一月十五日	カール・ローザの日	獨乙の革命家カール・リープクネヒト及びローザ・ルクセンブルグの暗殺されし日(一九一九年)
一月二十一日	レーニンデー	レーニンの死亡せし日(一九二四年)
*自一月二十五日 至一月二十一日	三Lデー(又は闘争週間)	前記三名の姓の頭文字(L)を採りて呼稱せるもの。
*二月一日	入營反対デー	反帝同盟を中心として行はる。
*二月十一日	建國祭撲滅デー	
二月十六日	二・一六記念日	第五次日本共産黨檢舉日(昭和五年)
*自二月(不定期) 至三月(不定期)	失業反対デー	各國夫々の情勢に應じ毎年大凡上記期間中に日を定む。日本に於いては、昭和六年二月二十五日昭和七年二月十九日に行へり。
*三月一日	朝鮮獨立萬歳事件記念日	(大正八年)
三月五日	第三インターナショナル創立大會記念日	(一九一九年)
三月五日	山宣暗殺記念日	元代議士山本宣治の暗殺されし日(昭和四年)
自三月十八日 至三月十八日	汎太平洋プロレタリア文化週間	日本プロレタリア文化聯盟加盟團體が中心となつて行ふ。

三月八日	國際婦人デー	ロシア・ベトログラードの女工が總罷業を行つた日(一九一七年)
*三月十日	陸軍記念日反対デー	反帝同盟を中心として行はる。
*三月十五日	三・一五記念日	第二次日本共産黨檢舉日(昭和三年)
三月十八日	パリ、コンミュン記念日	一八七一年巴里に於いて労働者が自治政府を組織(一時的)した日。
四月十日	三團體解散記念日	労働農民黨、日本労働組合評議會、全日本無産青年同盟の結社、禁止發令日(昭和三年)
*四月十六日	四・一六記念日	第三次日本共産黨檢舉日(昭和四年)
*五月一日	メーデー	我が國に於いては大正九年第一回メーデー開催さる。
五月(不定期) 自五月十五日 至五月十五日	プロレタリア文化祭 國際兒童週間	メーデー後に日本プロレタリア文化聯盟加盟團體に於いて行ふ。
五月五日	マルクスデー	ソヴェエト・ロシアに於いては一週間、我が國に於いては二週間行はる。
五月二十七日	海軍記念日反対デー	カアル・マルクスの誕生日(一八一八年)
五月三十日	五・三〇記念日	反帝同盟を中心として行はる。
六月十日	六・一〇記念日	上海に於ける同盟罷業團と警官隊との衝突事件の日(一九二五年)
七月(第一土曜日)	國際消費組合デー	李王殿下の葬儀に際する騒擾事件の日(大正八年)
*八月一日	國際赤色デー(又は反戦デー)	一九二三年以來實施。 歐洲大戰十五週年の前日たる一九二九年八月一日を第一回國際赤色デーと決定す。

*八月二十九日	朝鮮併合記念日(又は國恥記念日)	(明治四十三年)
九月一日	震災記念日	大正十二年の關東大震災に際しての所謂鮮人間を記念せるもの。
*九月四日	龜戸事件記念日(又は白色テロ反對デー)	大正十一年九月三日極左労働者數名が軍隊の命に反抗して殺害されたるを記念せるもの。
*九月(第一日曜日)	國際無産青年デー	一九二二年カール・リープクネヒトが反戰運動のため投獄された日を記念せるもの。
*九月十八日	滿蒙侵略戰爭記念日	昭和六年九月十八日突發せる滿洲事變を記念したもので反帝同盟を中心として行はる。
*十月七日	渡政デー	昭和三年十月六日自殺せる日本共産黨幹部渡邊政之輔を記念せるもの。
*十一月七日	ロシア革命記念日	(一九一七年)
自十一月初一日至十一月初七日	ロシア革命記念闘争週間	
*十一月二十日	共産青年同盟インターナショナル記念日	(一九一九年十一月二十日創立)
*十一月三十日	除隊日	反帝同盟を中心として行はる。
十二月十二日	モップルデー(若くは、廣東暴動記念日)	我が國に於いてはこの日を機として行はる。

尙學生運動に於いては、主として三月下旬より四月上旬に亘り受験生・新入生等に対して宣傳・煽動を行ふ。解説 極左運動者、左傾學生・生徒等は、右に列舉した日をば極左記念日とし、これ等の日を機として、殆んど慣例的に宣傳・煽動又はデモ(示威運動)等を行つてゐる。

附録の二

左傾運動並に思想關係主要用語略解表

五十音順

名	稱	原	名	略	解
ア	ギト・ブ	agit. prop. Truppe (獨)		煽動宣傳隊の意。	
ア	ジテーション又はアジ	agitation (英)		煽動。	
ア	ジ	agitate point (英)の略		秘密指導部。	
ア	ジ	agit. point (英)の略		煽動の爲に使用するピラ。	
ア	ジ	agitation and propaganda (英)の略		煽動、宣傳。	
ア	ッ	appeal (英)		「煽動する」の意。	
ア	ド又はアドレス	address (英)		言論、文書等に依り大衆に訴へる左翼の戦術の一種。	
ア	ール・エス	reading society (英)の略		宛名、通信所。左翼運動に於いては受取人と宛名とを區別し居れり。	
ア	ール・エス・エス・アール	Russian Socialist Soviet Republic (英)の略		讀書會。	
イ	ール・アー・デー・ハー	Das Internationale Arbeiter Theater Bund (獨)の略		ロシア社會主義ソヴェート共和國。	
イ	ール・アー・ハー	Die Internationale Arbeiter Hilfe (獨)の略		國際労働者演劇同盟(本部ベルリン)	
					國際労働者救援會(本部ベルリン)

一〇・三〇事件	Ideologie (獨)
イデオロギー	initiative (英)
イニシアチーブ	Der Internationale proletarische Freidenker (獨)の略
イー・ペー・エフ (I.P.F.)	instruction (英)の略
イフア (I.F.A.)	Internationale press Correspondence (英)の略
インプレス	Ultra-Linken (獨)の略
インプレコール	agent group (英)の略
ウルトラ	Exekutive Komitee (獨)の略
エイ・ジー (A.G.)	gent group (英)
エー・カー (E.K.)	Students Society of Social Science (英)の略
エー・エス (S.S.)	Souz Sovetskikh Sotsialisticheskikh Republik (英)の略
エス・エス・エス・ヘル (S.S.S.H.)	Federation of Student Society of Social Science (英)の略
エス・エフ (S.F.)	Student-Liberty. (英)の略
エス・エル (S.L.)	Educational Workers' International (英)の略
エドキンテルン (Edkinern)	

昭和七年十月三十日熱海に於いて檢舉されたる新生共産黨事件。或る社會集團の特有の物の見方考へ方を言ふ。例、プロレタリア・イデオロギー。元來發議權の意なるも通常或る運動を率先して提唱するを言ふ。國際プロレタリア自由思想家同盟(本部ベルリン)日本にては國際無神論者同盟と稱す。労働者文化協議會(ドイツ)。指 令。第三インターナショナルの機關紙たる國際情報雜誌の名稱。極 左。細胞下にある共産青年同盟の大衆的補助組織(共青候補者團體)執行委員會。A.G.の項参照。學生社會科學研究會。ソヴェート社會主義共和國聯邦。全日本學生社會科學聯合會(解消せり)。學生自由擁護同盟(解消せり)。國際教育労働者組合(本部、パリ)。

エル・カー・ペー (R.K.P.)	Die Russische Kommunistische Partei (獨)の略
オルグ (Org.)	organizer (英)の略
解 消	
解 派	
學 消	
學 聯	
ガ サ	
カ プ (Capf)	
科 同	Die Kommunistische Partei (獨)の略
カ ベー (K.P.)	
壁 新 聞	camouflage (佛)
カ ム フ ラ ー シ	campania (拉)
カ ン パ ー ニ ヤ	campania (拉)の略
キ ー ム (Kim)	Kommunisticheski International Molodeji (韓)の略

ロシア共産黨。本部より派遣され又は任命せられて或る團體又は個人を左傾運動に誘導組織すべき任務を帯ぶる者。一九三〇年労働黨内部に起つた解黨運動以來使用さる。一團體が新しき運動乃至組織の結成を目標として解體するの意。第二次日本共産黨獄中被告中、黨の誤謬を認めて、其の解體を主張する一派。學生消費組合。全日本學生社會科學聯合會(解消せり)。一齊檢舉又は家宅搜索の意。朝鮮プロレタリア美術家同盟。日本プロレタリア科學同盟。共産黨。職場、集会所等の壁を利用し、種々の時事ニュース、寫眞、漫畫等を貼付した一種のアジプロ新聞。假面をかむり瞞着すること。大衆闘争。同 上。國際共産青年同盟。

キヤブテン (Cap)	キャブテン	責任者。
共産青年同盟	Ku'ub (露)	共産青年同盟。
クラーフトベーク	Kurak (露)	東洋勤勞者共産主義大學。
クレステインテルン (Kresintern)		ロシア農村の富農。
ゲー・ペー・ウー (G.P.U.)		國際赤色農民組合。
ゲンブルン	Kem (獨)	勞農ロシア國家保安部。
工代會議		細胞。
行働會		ロシア五ヶ年社會主義建設計畫。
五ヶ年計畫		工場代表者會議。
ゴスプラン		ピラ撤き其の他特殊の大衆鬭争行為に動員されるもの。
ゴスプラン (Kopif)		ソヴェート同盟に於ける一九二八、九年的建設計畫。
コミンテルン又はコミンタ (Komintern)	Federacio de Proletaj Kulturaj Organizoj Japanaj (ヘンクハント) の略 Die Kommunistische Internationale (獨) の略。	勞農ロシア國家經濟計畫委員會。
コムソモール	Komsomol (露)	日本プロレタリア文化聯盟。
コムソモール	Komsomolka (露)	共産インターナショナル。
コムソモール		ロシア共産青年同盟。
コムソモール		ロシア共産女子青年同盟。

細胞。

ロシア五ヶ年社會主義建設計畫。

工場代表者會議。

ピラ撤き其の他特殊の大衆鬭争行為に動員されるもの。

ソヴェート同盟に於ける一九二八、九年的建設計畫。

勞農ロシア國家經濟計畫委員會。

日本プロレタリア文化聯盟。

共産インターナショナル。

ロシア共産青年同盟。

ロシア共産女子青年同盟。

コルホズ	kolhoz (露)	勞農ロシア集團經營農場。
細胞		黨同盟員又は組合員の一定數にて地域的に又は工場に組織する共産黨の構成單位
作同又は作家同盟		日本プロレタリア作家同盟。
刷同	circle (英)	全協内に起つた刷新同盟に由来し、一般には反幹部派の意に用ひらる。
サークル		一九三二年秋コップの結成に伴ふ新組織にして、表面左傾的意識を示さず、一般大衆を夫々の趣味、嗜好に應じて結合せんとしたもの。例「文學サークル」
サフホー	sovhoz (露)	勞農ロシア國營農場。
左翼小兒病		極左共産主義的傾向を言ふ。
三・一五事件		昭和三年三月十五日に檢舉されたる第二次日本共産黨事件。
三・一五事件		一月十五日 (K. Liebknecht, R. Luxemburg の暗殺されし日) より一月二十一日 (Lenin の死亡日)迄の一週間を言ふ。
産業豫備軍		現在生産に従事せざれども何時にても必要に應じて生産に従事し得る能力ある者。失業者及び未就職労働者等を指す。
サンチカリズム	syndicalisme (佛)	労働組合主義の一種、政治鬭争とプロレタリア獨裁とプロレタリア政黨を否定し組合運動の地方分権と經濟的ゼネストとを主張する主義。
産業労働調査所		産業労働調査所。
四・一六事件		昭和四年四月十六日檢舉されたる第三次日本共産黨事件。

勞農ロシア集團經營農場。

黨同盟員又は組合員の一定數にて地域的に又は工場に組織する共産黨の構成單位

日本プロレタリア作家同盟。

全協内に起つた刷新同盟に由来し、一般には反幹部派の意に用ひらる。

一九三二年秋コップの結成に伴ふ新組織にして、表面左傾的意識を示さず、一般大衆を夫々の趣味、嗜好に應じて結合せんとしたもの。例「文學サークル」

勞農ロシア國營農場。

極左共産主義的傾向を言ふ。

昭和三年三月十五日に檢舉されたる第二次日本共産黨事件。

一月十五日 (K. Liebknecht, R. Luxemburg の暗殺されし日) より一月二十一日 (Lenin の死亡日)迄の一週間を言ふ。

現在生産に従事せざれども何時にても必要に應じて生産に従事し得る能力ある者。失業者及び未就職労働者等を指す。

労働組合主義の一種、政治鬭争とプロレタリア獨裁とプロレタリア政黨を否定し組合運動の地方分権と經濟的ゼネストとを主張する主義。

産業労働調査所。

昭和四年四月十六日檢舉されたる第三次日本共産黨事件。

チ	チュール	tutor (英)
通	通信員	Daily Worker (英)
テ	デイリー・ウォーカー	
テ	ク	These (獨)
テ	デマゴーグ又はデマ	Demagog (獨)
テ	モ	demonstration (英)の略
テ	換作	terrorism (英) 又は terrorist (英)の略
傳	單	
黨	同盟	
同	同伴者又は同伴者作家	
同	同伴者又は同伴者作家	
ナト	ナポラム	tram (露) Nippona Artista Proleta Federacio (エス ペラント)の略

左傾理論の教育に當る補導者。
 勞農通信員の項参照。
 英國並びに米國の共產黨機關紙の名稱。
 技術部。
 要綱、綱領。
 惡宣傳。
 示威運動。
 直接行動又は暴力主義。或はその行爲者。
 既成作家にして、従来の藝術觀を捨てて
 プロレタリア藝術觀に轉するが如きもの
 を言ふ。例「片岡鐵兵」
 支那語「ピラ」の意なるも普通小型にして
 電柱等に貼付するものに用ふることも多し
 共產黨。
 共產青年同盟。
 プロレタリアートの革命運動に同情、好
 意を寄せつつも實際運動には参加せず、
 運動の進展について行くが如き者又は作
 家。
 レーニングレード勞働青年劇場。
 一九二八年四月結成、一九三一年十一月
 コップに解消せる全日本無産者藝術團體
 協議會。

ナ	ロードニキ	
二	一六事件	New Economic Policy (英)の略
ネ	プ	hungar-strike (英)
ハン	ガール・ストライキ	
反	戰	
反	對	
反	派	
反	帝	proletarian news (英)の略
ピ	イー・ニス	Proleta Musiko (エスペラント)の略
ピ	イー・エム	Proleta Plastiko (エスペラント)の略
ピ	イー・ビー	Proletarian youngmen' news (英)の略
ピ	イー・ワイ又はビー・ワイ	Pionier (獨)
ピ	エヌ(P.Y.又はP.Y.N.)	Picketing (英)の略
ピ	オニール	bureau (英)
ピ	ケ	
ピ	ロ	
和	見主	
義	義	

ロシア帝政時代の「人民の意志」黨員。
 昭和五年二月十六日に檢舉されたる第五
 次日本共產黨事件。
 一九二二年勞農ロシアに行はれたる新經
 濟政策。
 絶食を以て要求を貫徹せんとする爭議。
 赤色デーの頃参照。
 或る組合内に於いて、極左の見地より當
 該組合の指導精神に反對する一派にして
 事實上極左組合と關聯あるものと認めら
 る。例「全農全國會議派」
 反帝國主義民族獨立支持同盟。
 無産者新聞。
 日本プロレタリア音楽家同盟。
 日本プロレタリア美術家同盟の前の略稱
 無産青年。
 赤色少年團又は勞農少年團。
 監視又は見張り。
 書記局。
 確乎たる所信なき主義を言ふ。左翼では
 轉じて實際的效果のみを追求し終局目的
 を考慮せぬ事に用ふ。

メンシエヴィキ	menshevik (露)	
モップル	moprl (露)	
ヤチェイカ	yache ka (露)	
ヤッブイカ	Japan Prolet Artists Union (ロシア)の略。	日本プロレタリア美術家同盟。
山川イズム		大正十年政治闘争の必要を高唱し、協同戦線黨を主張した山川均の理論體系。後日本イズムの擡頭と共に排撃されたが、今日尙勞農派の指導理論として存続して居る。
山		昭和四年三月五日暗殺された元勞農黨所屬代議士山本宣治。
ラップ (Rap)	L, Huranté (佛)	ロシア・プロレタリア作家同盟。
リンクス・クルフェ	Links Krive (獨)	フランス共産黨機關紙。
レポ又はレポーター	Reporter (英)	獨逸の極左文藝團體の機關誌。
勞藝		情報通信員。又は通信文書。
勞救		勞農藝術家聯盟。
勞新		勞農救援會。
ロック・アウト	lock-out (英)	勞働新聞又は同社。
ローテ・ファーン	De Rote Fahne (獨)	工場閉鎖。
		獨逸共産黨中央機關紙。

ブレハーンの指導せる「多數派」に對して「少數派」を言ふ。赤色救援會。

細胞。

日本プロレタリア美術家同盟。

大正十年政治闘争の必要を高唱し、協同戦線黨を主張した山川均の理論體系。後日本イズムの擡頭と共に排撃されたが、今日尙勞農派の指導理論として存続して居る。

昭和四年三月五日暗殺された元勞農黨所屬代議士山本宣治。

ロシア・プロレタリア作家同盟。

フランス共産黨機關紙。

獨逸の極左文藝團體の機關誌。

情報通信員。又は通信文書。

勞農藝術家聯盟。

勞農救援會。

勞働新聞又は同社。

工場閉鎖。

獨逸共産黨中央機關紙。

勞働者派		
勞農通信員又は通信員		
勞農		
勞農文化聯盟		
ワイ・シー・アイ (Y.C.I.)	Young Communist International (英)の略	
Y (無青)友の會		
渡		

前掲解黨派中の勞働者にして新黨の結成を企圖する一派。

工場、農村、兵營、學校等にある勞働者農民、兵士、學生等にして左傾新聞雜誌と連絡をとり、諸種の具體的問題を報告の形式で通信する者。

荒畑、大森等雜誌「勞農」同人の一派にして、山川イズムを奉じ、政治的には全國大衆黨を支持す。

「勞農派」「勞藝」等の同人に依つて結成されたる文化團體にして、日本プロレタリア文化聯盟と明確に對立す。

國際青年共産同盟。

「無産青年」の讀者班。以前の無青班に相當す。

昭和三年十月六日臺灣に於いて自殺せる日本共産黨幹部渡邊政之輔。

東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校

文
部
省

東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校

東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校
東京府立第一高等女子学校

